

身延町・まちづくりアンケート調査

(町民用アンケート、単純集計)

平成 27 年 8 月 1 1 日



公益財団法人 山梨総合研究所

もくじ

調査概要	1
1. 町民アンケート.....	2
問 1 (ア) : 性別 (SA)	2
問 1 (イ) : 年齢 (SA)	3
問 1 (ウ) : 職業 (SA)	4
問 1 (エ) : 居住地区 (SA)	5
問 1 (オ) : 身延町での居住年数(旧町から通算) (SA)	6
問 1 (カ) : 同居家族 (MA)	7
問 2 : 身延町の住みやすさ (SA)	9
問 3 : これからも身延町に住み続けたいと思うか (SA)	10
問 3-① : 「今の場所に住み続けたい」と思う理由 (FA)	11
問 3-② : 「町内の別のところに移りたい」と思う理由 (FA)	11
問 3-③ : 「町外に移りたい」と思う理由 (MA)	11
問 4 : 身延町の現状についての満足度 (SA)	13
問 5 : 身延町をどのようなまちにしていきたいと思うか (MA)	17
問 6 : 農地のあり方についての考え (SA)	18
問 7 : 定住を促進するために、特に必要だと考えること (MA)	19
問 8 : 身延町の産業振興について、特に力を注ぐべきだと考える分野 (MA)	20
問 9 : 今後のまちづくりにおける、取り組みの重要度 (SA)	21
問 9-① : 特に重要だと思う取り組みと、具体的提案 (MA)	25
問 10 : 地域や各種団体・サークル等の活動にどの程度参加しているか (SA)	26
問 11 : どのような活動に参加しているか(または参加したいか) (MA)	26
問 12 : 町の活力を維持していくために必要な人口規模 (SA)	27
問 13 : 現在の住まい (SA)	28
問 14 : 結婚しているか (SA)	29
問 14-① : 将来結婚したいと思うか (SA)	30
問 15 : 理想的な子どもの数 (SA)	31
問 16 : 結婚を希望する未婚者に対する支援として重要だと思うもの (MA)	32
問 17 : 結婚・子育てにとって、支障になること (MA)	33
問 18 : 身延町外に在住したことがあるか (SA)	34
問 18-① : 在住したことがある市町村 (MA)	35
問 18-② : 身延町に転入してきた理由 (MA)	36
問 19 : 移住者の受け入れについて (SA)	37
問 20 : 他の市町村と比較して、身延町の「良い点」 (MA)	38

問 20 : 他の市町村と比較して、身延町の「良くない点」(MA)	39
問 21 : 通勤・通学している場所 (SA)	40
問 21-① : 通勤・通学の主な手段 (MA)	42
問 21-② : 通勤・通学に要している時間(片道)と距離(片道) (SA)	43
問 21-③ : 通勤・通学可能と考える、時間(片道)と距離(片道)の上限 (SA)	45
問 21-④ : 中部横断自動車道を通勤・通学に利用するか (MA)	47
問 21-⑤ : 高速道路料金が通勤手当として支給される場合、高速道路を利用するか.....	48
問 21-⑥ : 利用するインターチェンジ(SA).....	49
問 22 : 中部横断自動車道開通により、身延町はどのように変化すると思うか(SA)	50

調査概要

① 調査の目的

身延町のまちづくりに対する町民の様々な意向や希望を幅広く把握し、分析を行うことにより、少子・高齢化や過疎化の進行に伴う様々な課題を抽出し、身延町の人口ビジョン・総合戦略の策定のための基礎資料とする。

② 調査時期

アンケート期間：平成 27 年 7 月 9 日（木）～ 7 月 31 日（金）

③ 調査対象

- 身延町に在住する 18 以上の町民を無作為抽出
- 調査対象者数：3,000 人

④ 調査方法

郵送による配布・回収

⑤ 回収結果（H27 年 8 月 3 日現在）

・合計 1,444 件（有効回収率 48.1%）

⑥ 本報告書中の記号、調査結果の数値について

（S A）…… 単一回答（Single Answer）の略。選択回答は 1 項目のみ。

（M A）…… 複数回答（Multi Answer）の略。

（一部回答を限定しているものもある。）

複数回答における回答率は 100%を超える場合がある。

（N A）…… 数値回答（Number Answer）の略。該当する数値を記入するもの。

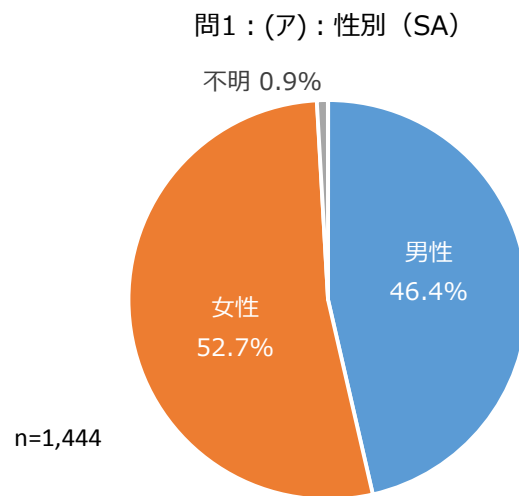
n …… 回答者数（number）をあらわす。「n = 100」は、回答者数が 100 人ということ。

各回答項目の構成比は、小数点第二位を四捨五入しているため、各項目の合計が 100%にならない場合もある。

1. 町民アンケート

問1(ア)：性別 (SA)

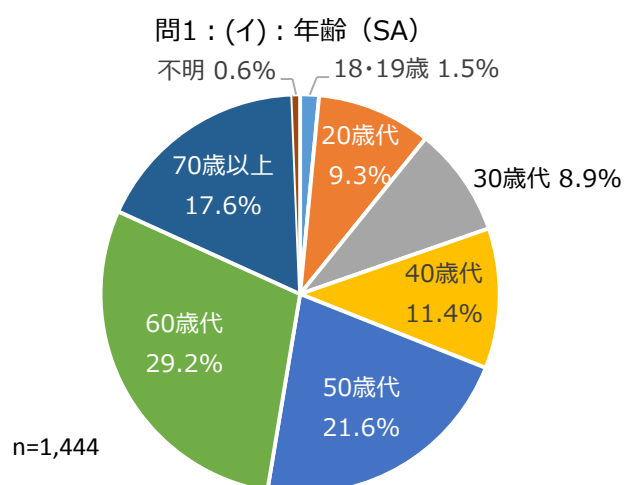
性別は、男性が46.4%、女性が52.7%となっている。



	N	%
男性	670	46.4%
女性	761	52.7%
不明	13	0.9%
サンプル数	1,444	100.0%

問1(イ)：年齢 (SA)

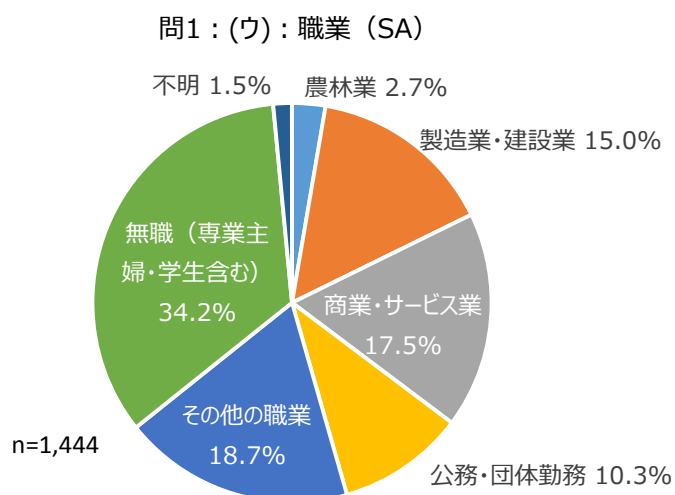
年齢は、「60歳代」が29.2%と最も高く、次いで「50歳代」(21.6%)、「70歳以上」(17.6%)と続いている。回答者の7割弱(68.4%)が50歳以上となっている。



	N	%
18・19歳	22	1.5%
20歳代	134	9.3%
30歳代	128	8.9%
40歳代	164	11.4%
50歳代	312	21.6%
60歳代	421	29.2%
70歳以上	254	17.6%
不明	9	0.6%
サンプル数	1,444	100.0%

問 1(ウ) : 職業 (SA)

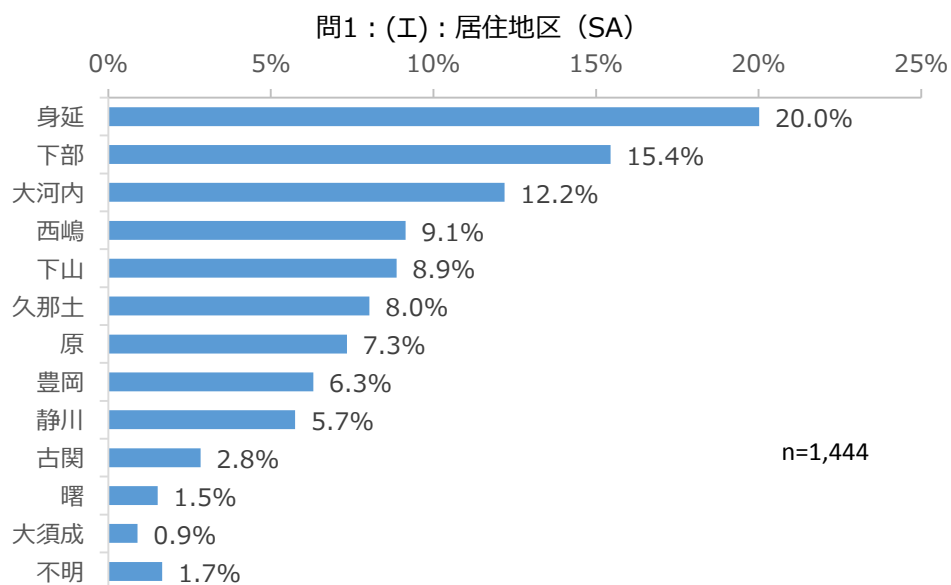
職業は、「無職（専業主婦・学生含む）」が 34.2%と最も多く、次いで「商業・サービス業」（17.5%）、「製造業・建設業」（15.0%）と続いている。



	N	%
農林業	39	2.7%
製造業・建設業	217	15.0%
商業・サービス業	253	17.5%
公務・団体勤務	149	10.3%
その他の職業	270	18.7%
無職（専業主婦・学生含む）	494	34.2%
不明	22	1.5%
サンプル数	1,444	100.0%

問 1(工) : 居住地区 (SA)

居住地区は、「身延」が 20.0%と最も多く、次いで「下部」(15.4%)、「大河内」(12.2%)と続いている。

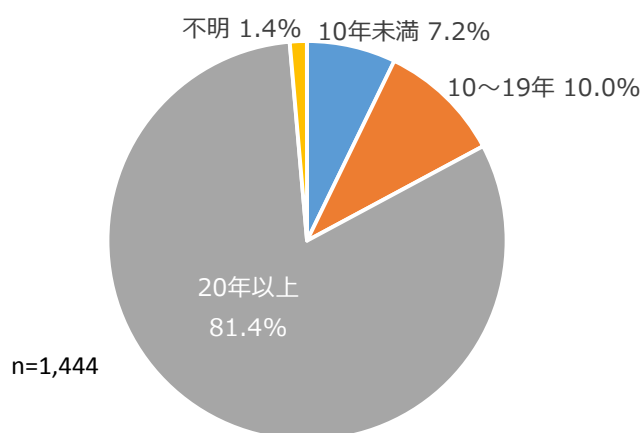


	N	%
身延	289	20.0%
下部	223	15.4%
大河内	176	12.2%
西嶋	132	9.1%
下山	128	8.9%
久那土	116	8.0%
原	106	7.3%
豊岡	91	6.3%
静川	83	5.7%
古関	41	2.8%
曙	22	1.5%
大須成	13	0.9%
不明	24	1.7%
サンプル数	1,444	100.0%

問 1(オ)：身延町での居住年数(旧町から通算) (SA)

身延町での居住年数（旧町からの通算）は、「20年以上」が81.4%と大多数を占めており、「10～19年」が10.0%、「10年未満」が7.2%となっている。

問1：(オ)：身延町での居住年数(旧町から通算) (SA)

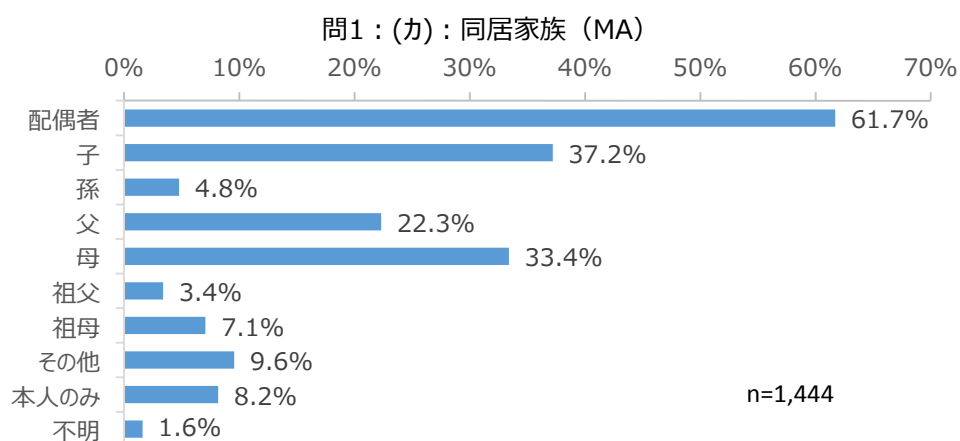


	N	%
10年未満	104	7.2%
10～19年	144	10.0%
20年以上	1,176	81.4%
不明	20	1.4%
サンプル数	1,444	100.0%

問 1(カ) : 同居家族 (MA)

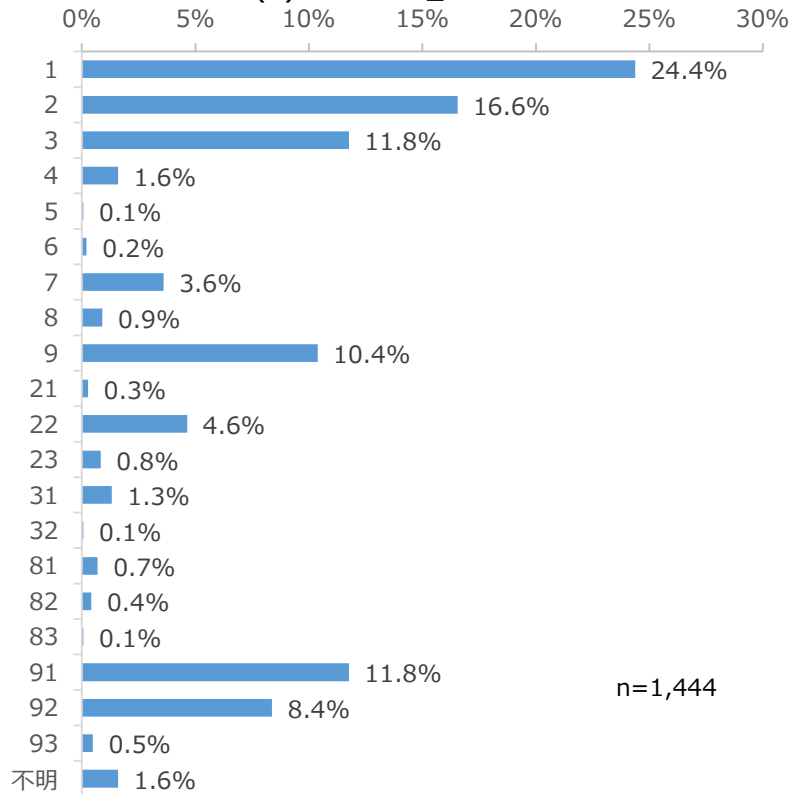
同居家族は、「配偶者」が 61.7%と最も多く、次いで「子」(37.2%)、「母」(33.4%)と続いている。

家族類型でみると、核家族世帯（夫婦もしくは夫婦及び子ども）は 41.0%と最も多く、次いで夫婦・子・孫の世帯（11.8%）、父母との同居（11.8%）、独身・単身（10.4%）、父母・祖父母との同居（8.4%）となっている。



	N	%
配偶者	891	61.7%
子	537	37.2%
孫	69	4.8%
父	322	22.3%
母	482	33.4%
祖父	49	3.4%
祖母	102	7.1%
その他	138	9.6%
本人のみ	118	8.2%
不明	23	1.6%
サンプル数	1,444	100.0%

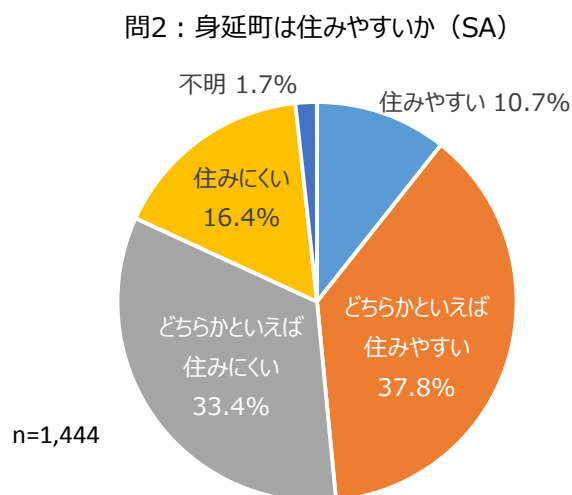
問1(カ)：同居家族_類型 (SA)



	N	%
1.配偶者	352	24.4%
2.配偶者、子	239	16.6%
3.配偶者、子、孫	170	11.8%
4.配偶者、子、孫、父母	23	1.6%
5.配偶者、子、孫、父母、祖父母	1	0.1%
6.配偶者、子、孫、祖父母	3	0.2%
7.子	52	3.6%
8.子、孫、その他	13	0.9%
9.本人のみ	150	10.4%
21.配偶者、孫	4	0.3%
22.配偶者、父母	67	4.6%
23.配偶者、祖父母など	12	0.8%
31.配偶者、子、祖父母	19	1.3%
32.配偶者、父母、祖父母	1	0.1%
81.子、父母	10	0.7%
82.子、父母、祖父母	6	0.4%
83.子、祖父母	1	0.1%
91.父母	170	11.8%
92.父母、祖父母	121	8.4%
93.祖父母	7	0.5%
不明	23	1.6%
サンプル数	1,444	100.0%

問 2 : 身延町の住みやすさ (SA)

身延町の住みやすさについて質問したところ、「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」と回答した人の割合は 48.5%で、「住みにくい」、「どちらかといえば住みにくい」の割合は 49.8%となり、「住みにくい」、「どちらかといえば住みにくい」と答えた人がやや上回った。

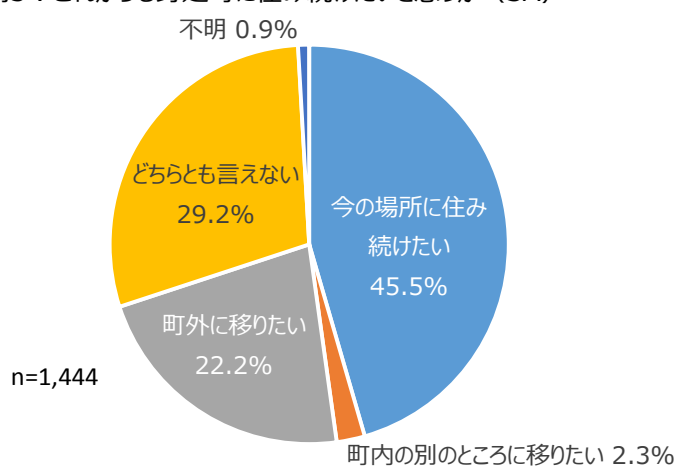


	N	%
住みやすい	154	10.7%
どちらかといえば住みやすい	546	37.8%
どちらかといえば住みにくい	482	33.4%
住みにくい	237	16.4%
不明	25	1.7%
サンプル数	1,444	100.0%

問3：これからも身延町に住み続けたいと思うか（SA）

これからも身延町に住み続けたいと思うかについて質問したところ、「今の場所に住み続けたい」と答えた人の割合は45.5%で最も多かったが、一方で、「町外に移りたい」と答えた人の割合は22.2%、「どちらとも言えない」が29.2%もあり、潜在的な転出者が多いことがわかる。

問3：これからも身延町に住み続けたいと思うか（SA）



	N	%
今の場所に住み続けたい	657	45.5%
町内の別のところに移りたい	33	2.3%
町外に移りたい	320	22.2%
どちらとも言えない	421	29.2%
不明	13	0.9%
サンプル数	1,444	100.0%

問3-①：「今の場所に住み続けたい」と思う理由（FA）

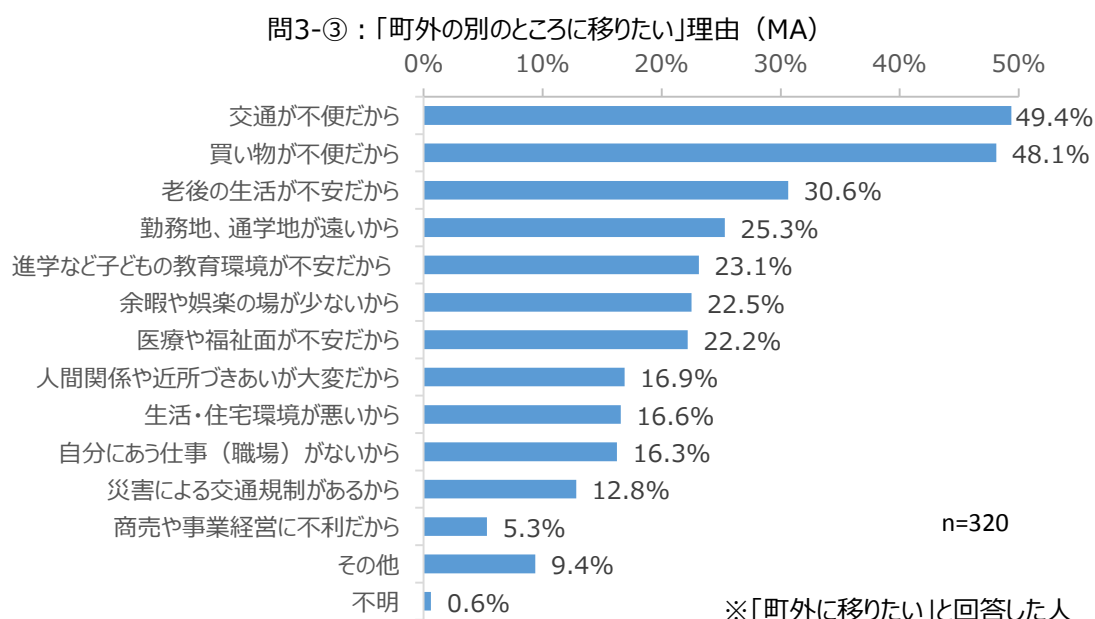
「今の場所に住み続けたい」と思う理由として、「土地や家がある」、「生まれ育った土地である」、「住みなれている」など、地元根付いているという理由が多い。

問3-②：「町内の別のところに移りたい」と思う理由（FA）

「町内の別のところに移りたい」と思う理由として、日当たりの悪さや災害の危険性など、自然環境に起因する理由、「買い物に不便」、「交通が不便」、「通勤、通学に不便」など生活環境の不便さを理由にあげている。

問3-③：「町外に移りたい」と思う理由（MA）

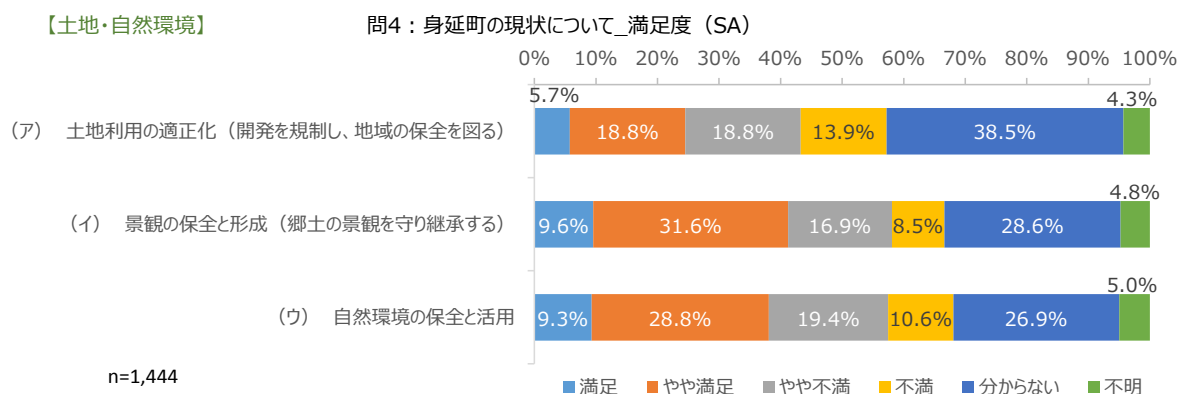
「町外に移りたい」と回答した人に理由をたずねたところ、「交通が不便だから」と回答した人の割合が最も高く49.4%、次いで「買い物が不便だから」（48.1%）、「老後の生活が不安だから」（30.6%）と続いている。



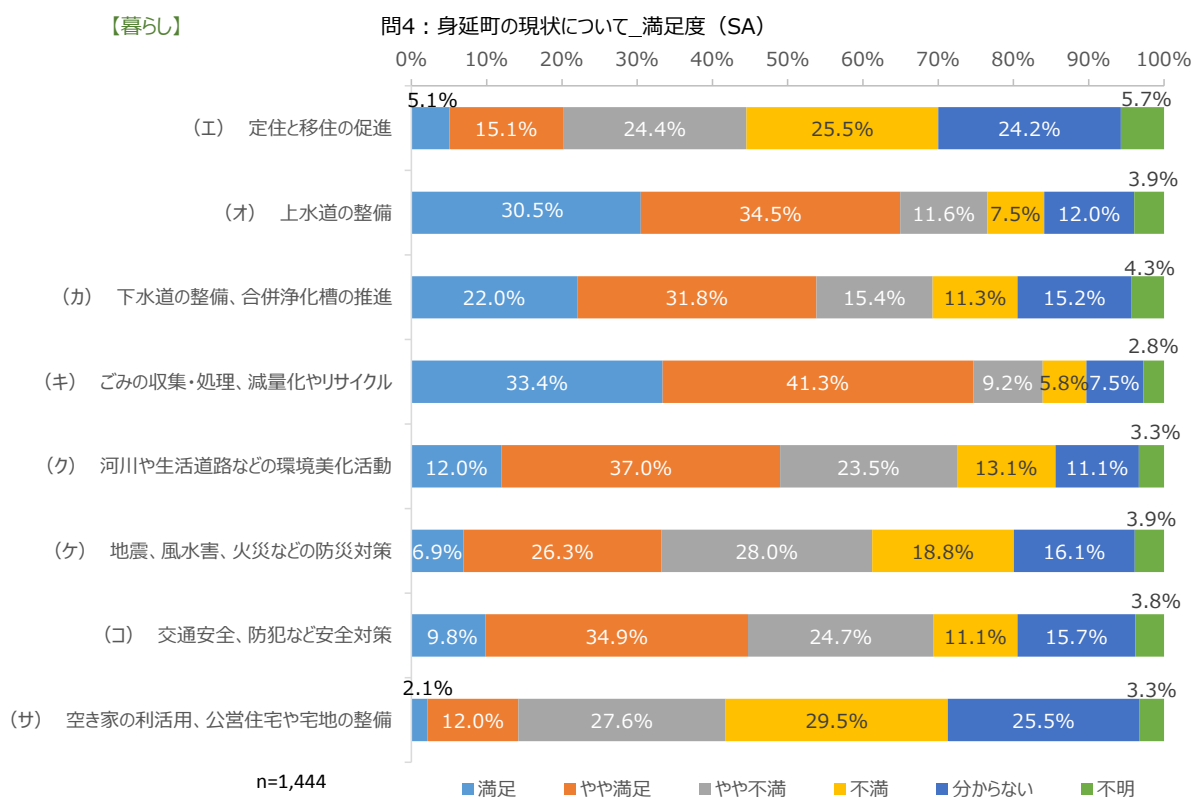
	N	%
交通が不便だから	158	49.4%
買い物が不便だから	154	48.1%
老後の生活が不安だから	98	30.6%
勤務地、通学地が遠いから	81	25.3%
進学など子どもの教育環境が不安だから	74	23.1%
余暇や娯楽の場が少ないから	72	22.5%
医療や福祉面が不安だから	71	22.2%
人間関係や近所づきあいが大変だから	54	16.9%
生活・住宅環境が悪いから	53	16.6%
自分にあう仕事（職場）がないから	52	16.3%
災害による交通規制があるから	41	12.8%
商売や事業経営に不利だから	17	5.3%
その他	30	9.4%
不明	2	0.6%
サンプル数	320	100.0%

問4：身延町の現状についての満足度（SA）

土地・自然環境について、「土地利用の適正化」、「自然環境の保全と活用」は不満がやや多く、「景観の保全と形成」は満足度が高い。

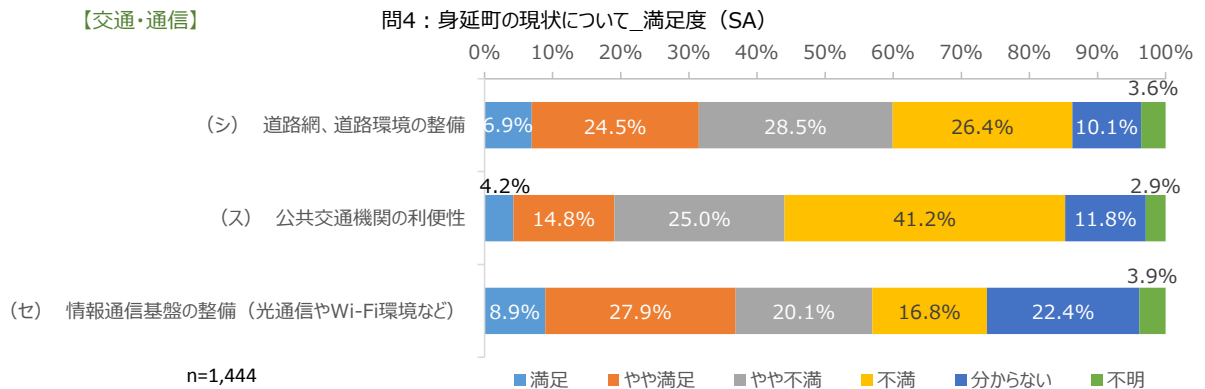


暮らしについては、「定住と移住の促進」、「空き家の利活用」、「防災対策」は不満が多く、その他の項目は満足度が高い。



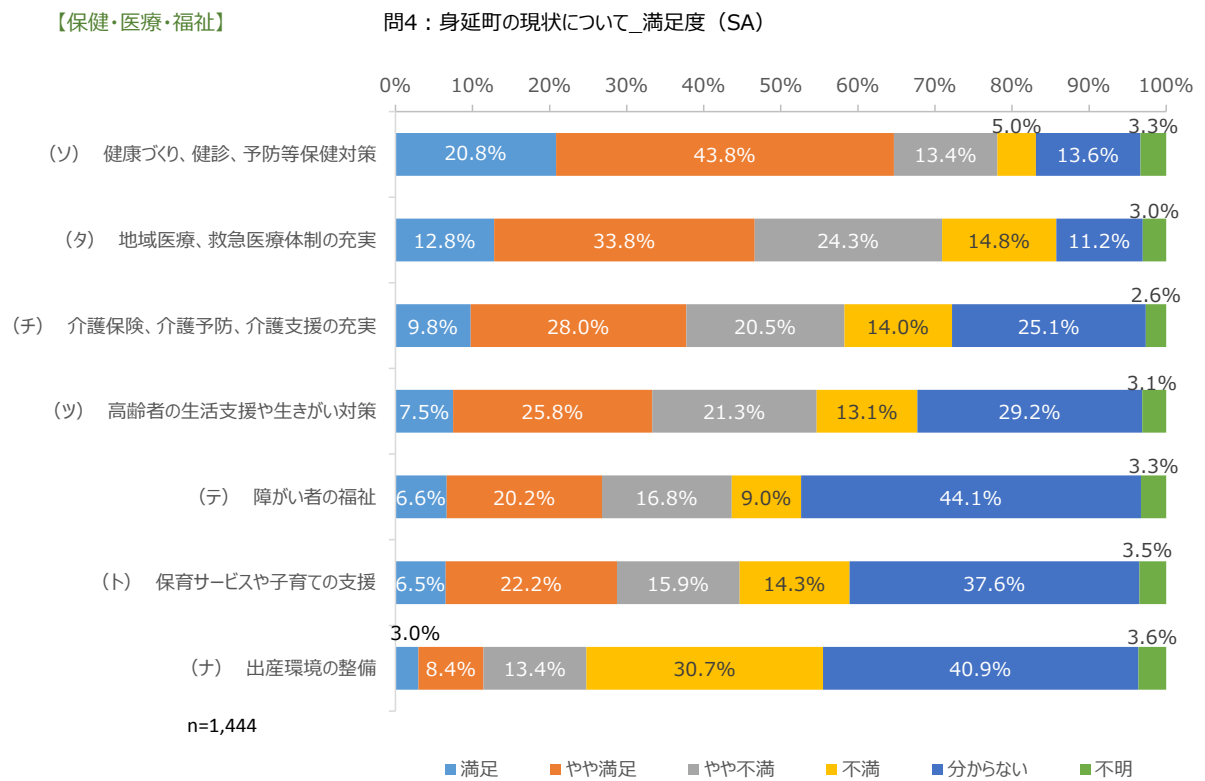
交通・通信については、「公共交通機関の利便性」、「道路網の整備」で不満が大きく上回っている。「情報通信基盤」については、不満、満足がほぼ拮抗している。

【交通・通信】

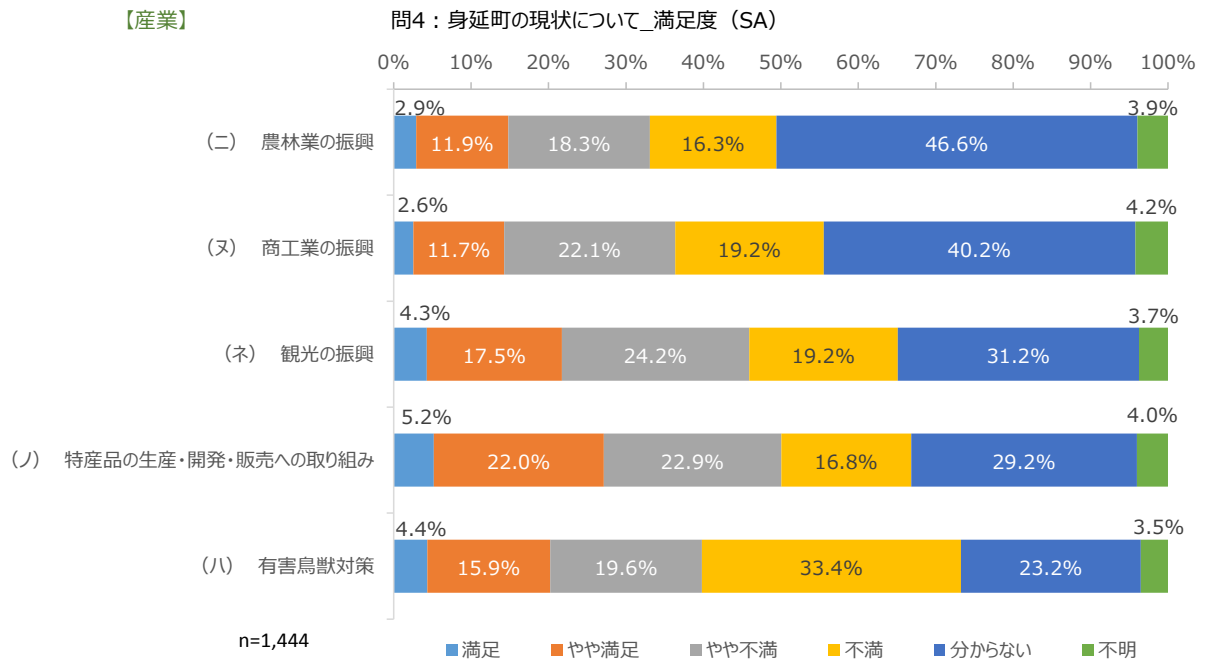


保健・医療・福祉については、「健康づくり」、「地域医療」、「介護」などは満足が上回る。他方、「出産環境の整備」については不満が大きい。

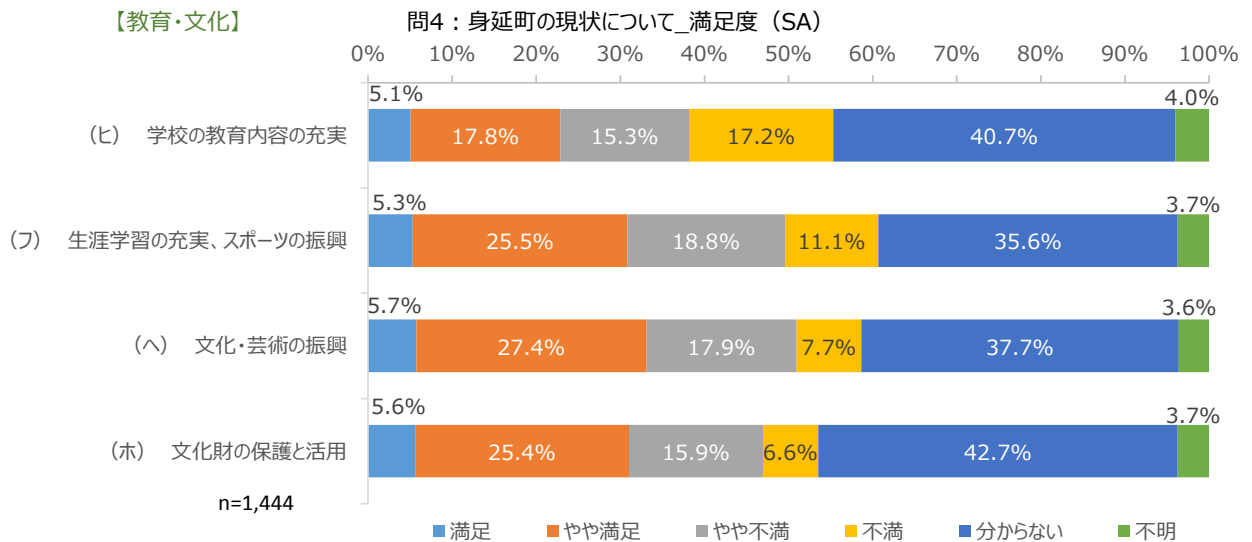
【保健・医療・福祉】



産業については、あらゆる項目で不満が上回っている。



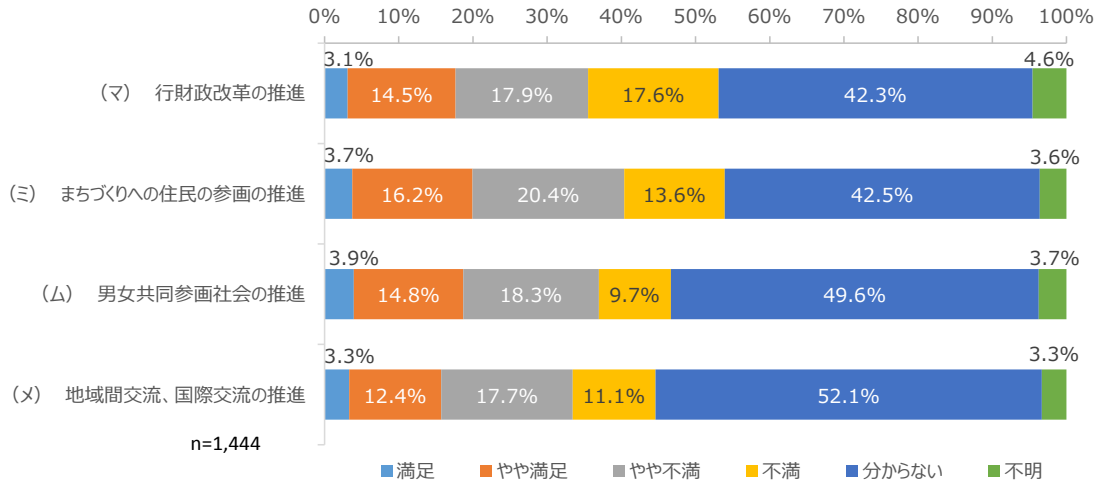
教育・文化については、「文化・芸術の振興」や「文化財の保護」は満足が上回るが、「学校教育」は不満が上回る。



まちづくりの推進については、全ての項目で不満が上回っている。

【まちづくり推進】

問4：身延町の現状について_満足度（SA）



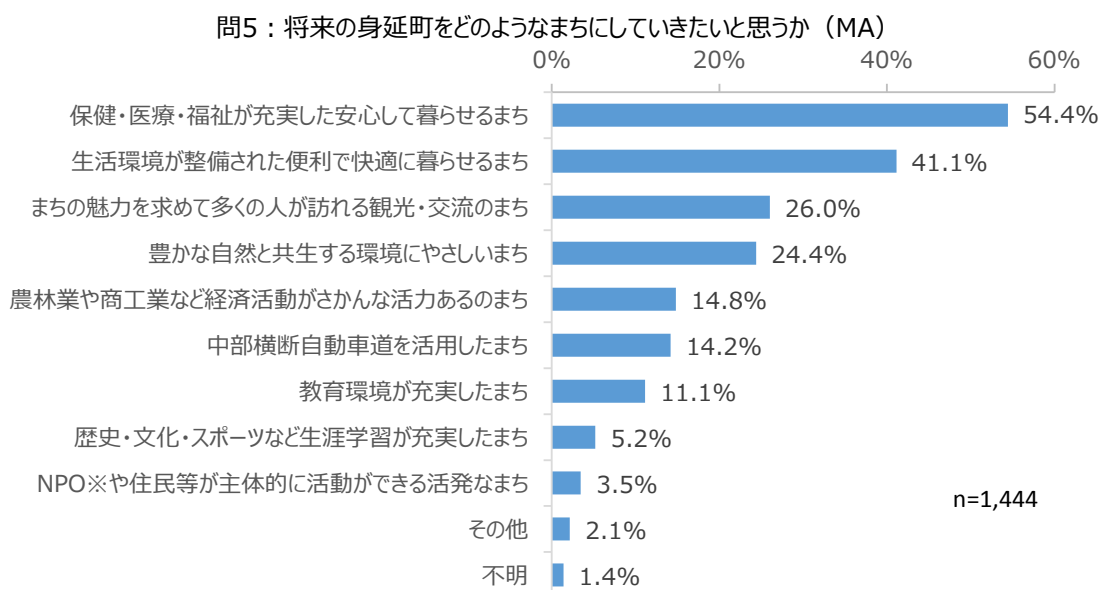
	(ア) 土地利用の適正化 (開発を規制し、地域の保全を図る)	(イ) 景観の保全と形成 (郷土の景観を守り継承する)	(ウ) 自然環境の保全と活用	(エ) 定住と移住の促進	(オ) 上下道の整備	(カ) 下水道の整備、合併浄化槽の推進	(キ) ごみの収集・処理、減量化やリサイクル	(ク) 河川や生活道路などの環境美化活動	(ケ) 地震、風水害、火災などの防災対策	(コ) 交通安全、防犯など安全対策	(サ) 空き家の利活用、公営住宅や宅地の整備
満足	83	138	134	73	440	318	482	173	100	142	31
やや満足	271	457	416	218	498	459	596	534	380	504	174
やや不満	271	244	280	352	167	223	133	339	404	356	398
不満	201	123	153	368	109	163	84	189	272	161	426
分からない	556	413	389	350	173	219	109	160	232	226	368
不明	62	69	72	83	57	62	40	48	56	55	47
サンプル数	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,443	1,444	1,444	1,444

	(シ) 道路網、道路環境の整備	(ス) 公共交通機関の利便性	(セ) 情報通信基盤の整備 (光通信やWi-Fi環境など)	(ソ) 健康づくり、健診、予防等保健対策	(タ) 地域医療、救急医療体制の充実	(チ) 介護保険、介護予防、介護支援の充実	(ツ) 高齢者の生活支援や生きがい対策	(テ) 障がい者の福祉	(ト) 保育サービスや子育ての支援	(ナ) 出産環境の整備
満足	100	61	129	301	185	141	108	96	94	43
やや満足	354	214	403	633	488	404	373	291	321	122
やや不満	411	361	290	194	351	296	308	243	230	193
不満	381	595	243	72	214	202	189	130	206	443
分からない	146	171	323	196	162	363	421	637	543	591
不明	52	42	56	48	44	38	45	47	50	52
サンプル数	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444

	(ニ) 農林業の振興	(ヌ) 商工業の振興	(ネ) 観光の振興	(ノ) 特産品の生産・開発・販売への取り組み	(ハ) 有害鳥獣対策	(ヒ) 学校の教育内容の充実	(フ) 生涯学習の充実、スポーツの振興	(ヘ) 文化・芸術の振興	(ホ) 文化財の保護と活用	(マ) 行財政改革の推進	(ミ) まちづくりへの住民の参画の推進	(ム) 男女共同参画社会の推進	(メ) 地域間交流、国際交流の推進
満足	42	37	62	75	63	73	77	83	81	45	54	57	48
やや満足	172	169	252	317	229	257	368	395	367	210	234	213	179
やや不満	264	319	349	331	283	221	271	258	230	258	295	264	256
不満	236	277	277	242	483	248	160	111	95	254	196	140	161
分からない	673	581	450	421	335	587	514	545	617	611	613	716	752
不明	57	61	54	58	51	58	54	52	54	66	52	54	48
サンプル数	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444

問5：身延町をどのようなまちにしていきたいと思うか（MA）

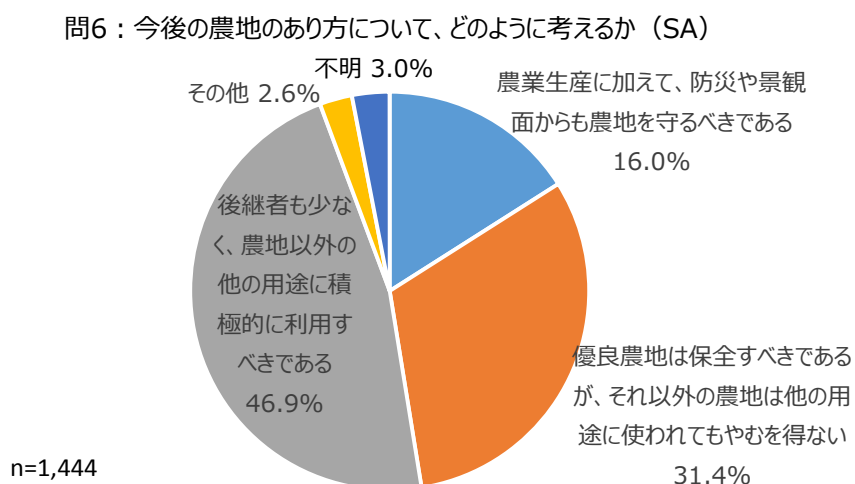
身延町の将来像としては、「保健・医療・福祉が充実した安心して暮らせるまち」が54.4%で最も高く、次いで「生活環境が整備された便利で快適に暮らせるまち」が41.1%、「まちの魅力を求めて多くの人が訪れる観光・交流のまち」が26.4%と続いている。



	N	%
保健・医療・福祉が充実した安心して暮らせるまち	786	54.4%
生活環境が整備された便利で快適に暮らせるまち	594	41.1%
まちの魅力を求めて多くの人が訪れる観光・交流のまち	376	26.0%
豊かな自然と共生する環境にやさしいまち	352	24.4%
農林業や商工業など経済活動がさかんな活力あるのまち	214	14.8%
中部横断自動車道を活用したまち	205	14.2%
教育環境が充実したまち	161	11.1%
歴史・文化・スポーツなど生涯学習が充実したまち	75	5.2%
NPO※や住民等が主体的に活動ができる活発なまち	50	3.5%
その他	31	2.1%
不明	20	1.4%
サンプル数	1,444	100.0%

問 6 : 農地のあり方についての考え (SA)

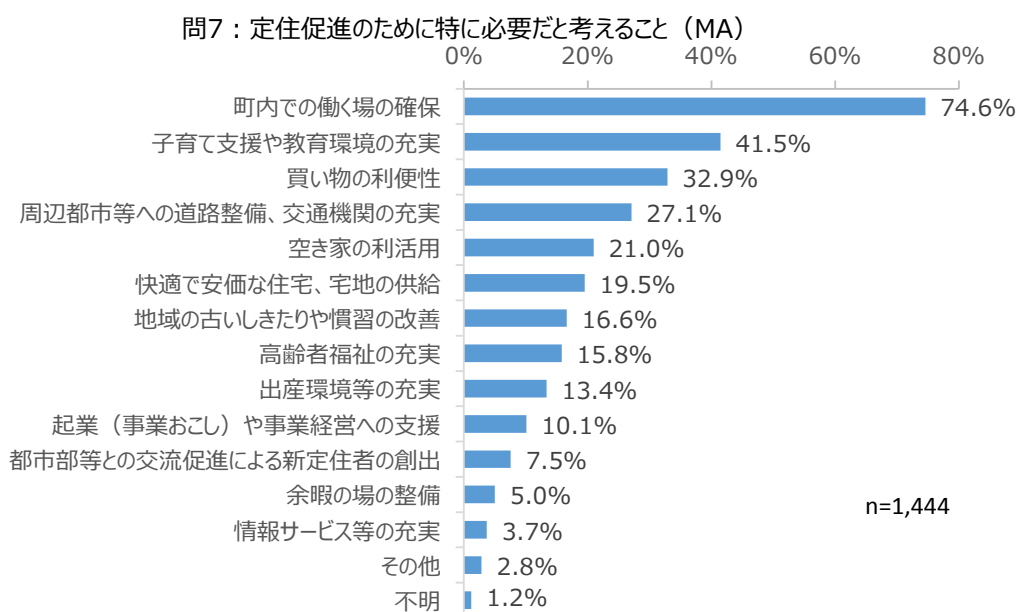
農地のあり方についてたずねたところ、「後継者も少なく、農地以外の他の用途に積極的に利用すべきである」が 46.9%と高く、「優良農地は保全すべきであるが、それ以外の農地は他の用途に使われてもやむを得ない」が 31.4%、「農業生産に加えて、防災や景観面からも農地を守るべきである」が 16.0%と続いている。



問 6 : 今後の農地のあり方について、どのように考えるか	N	%
農業生産に加えて、防災や景観面からも農地を守るべきである	231	16.0%
優良農地は保全すべきであるが、それ以外の農地は他の用途に使われてもやむを得ない	454	31.4%
後継者も少なく、農地以外の他の用途に積極的に利用すべきである	677	46.9%
その他	38	2.6%
不明	44	3.0%
サンプル数	1,444	100.0%

問 7：定住を促進するために、特に必要だと考えること（MA）

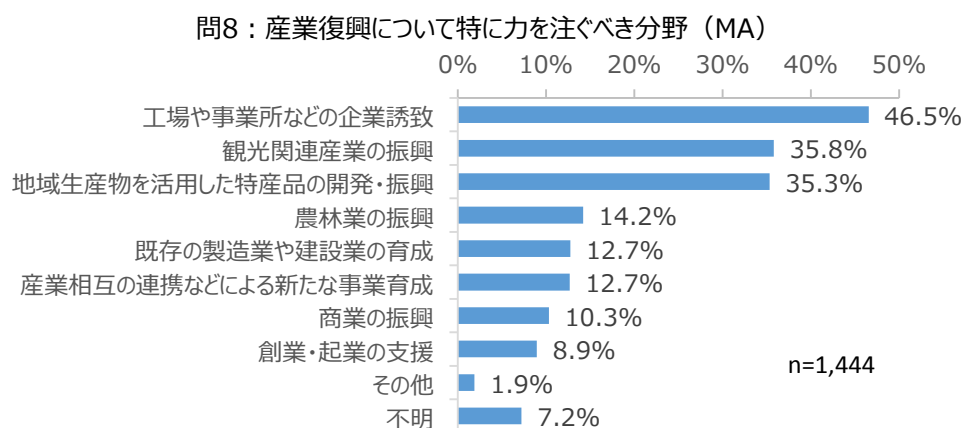
定住促進のために特に必要だと考えることは、「町内での働く場所の確保」が 74.6%と圧倒的に高く、「子育て支援や教育環境の充実」が 41.5%、「買い物の利便性」が 32.9%と続いている。



	N	%
町内での働く場所の確保	1,077	74.6%
子育て支援や教育環境の充実	599	41.5%
買い物の利便性	475	32.9%
周辺都市等への道路整備、交通機関の充実	391	27.1%
空き家の利活用	303	21.0%
快適で安価な住宅、宅地の供給	282	19.5%
地域の古いしきたりや慣習の改善	240	16.6%
高齢者福祉の充実	228	15.8%
出産環境等の充実	193	13.4%
起業（事業おこし）や事業経営への支援	146	10.1%
都市部等との交流促進による新定住者の創出	109	7.5%
余暇の場の整備	72	5.0%
情報サービス等の充実	53	3.7%
その他	41	2.8%
不明	17	1.2%
サンプル数	1,444	100.0%

問 8 : 身延町の産業振興について、特に力を注ぐべきだと考える分野 (MA)

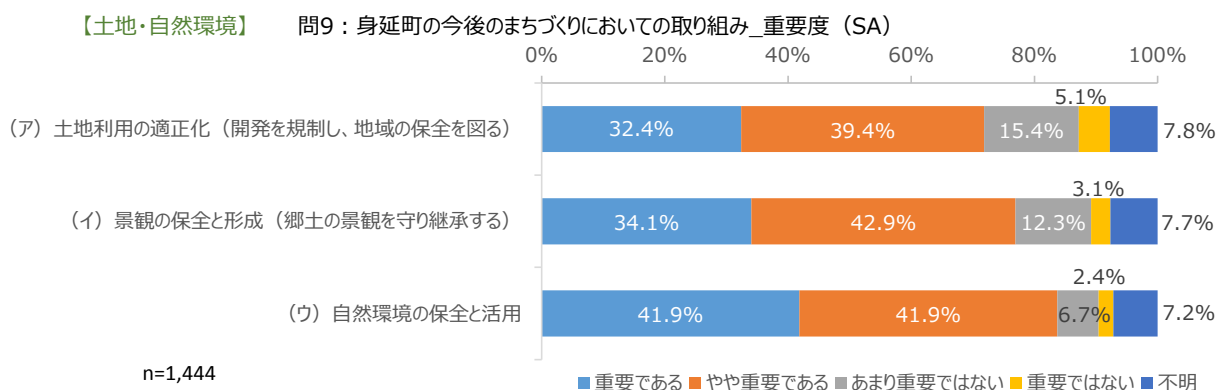
産業振興について特に力を注ぐべき分野は、「工場や事業所などの企業誘致」が 46.5%と最も高く、次いで「観光関連産業の振興」が 35.8%、「地域生産物を活用した特産品の開発・振興」が 35.3%と続いている。



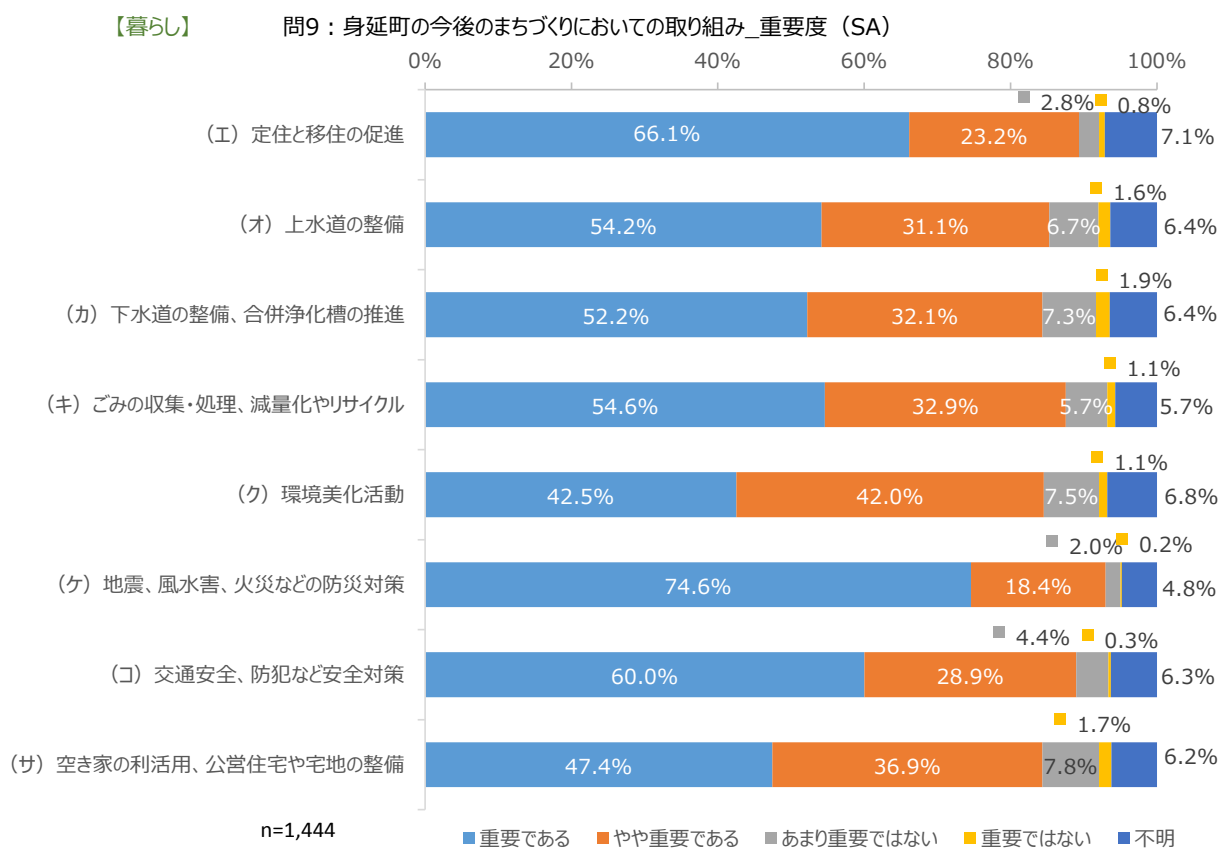
	N	%
工場や事業所などの企業誘致	672	46.5%
観光関連産業の振興	517	35.8%
地域生産物を活用した特産品の開発・振興	510	35.3%
農林業の振興	205	14.2%
既存の製造業や建設業の育成	184	12.7%
産業相互の連携などによる新たな事業育成	183	12.7%
商業の振興	149	10.3%
創業・起業の支援	129	8.9%
その他	27	1.9%
不明	104	7.2%
サンプル数	1,444	100.0%

問9：今後のまちづくりにおける、取り組みの重要度（SA）

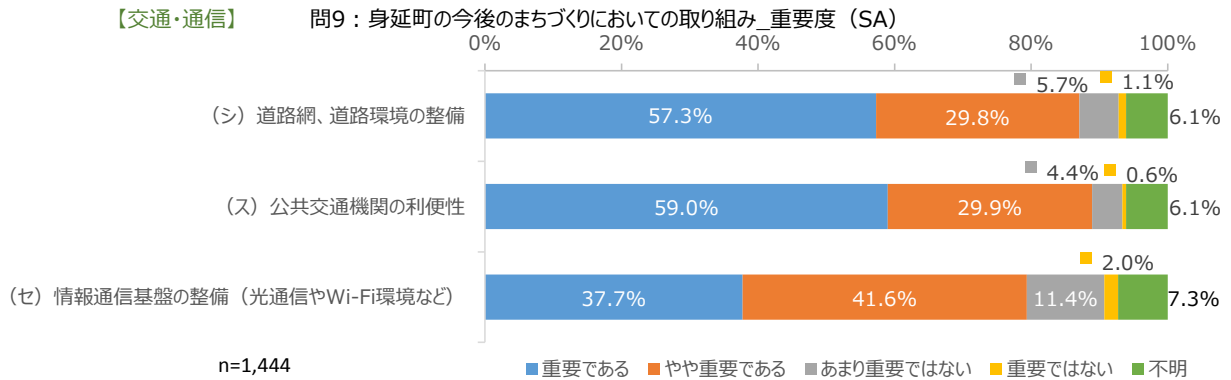
土地・自然環境については、全ての項目で「重要」と「やや重要」を合計すると7割を超える。。



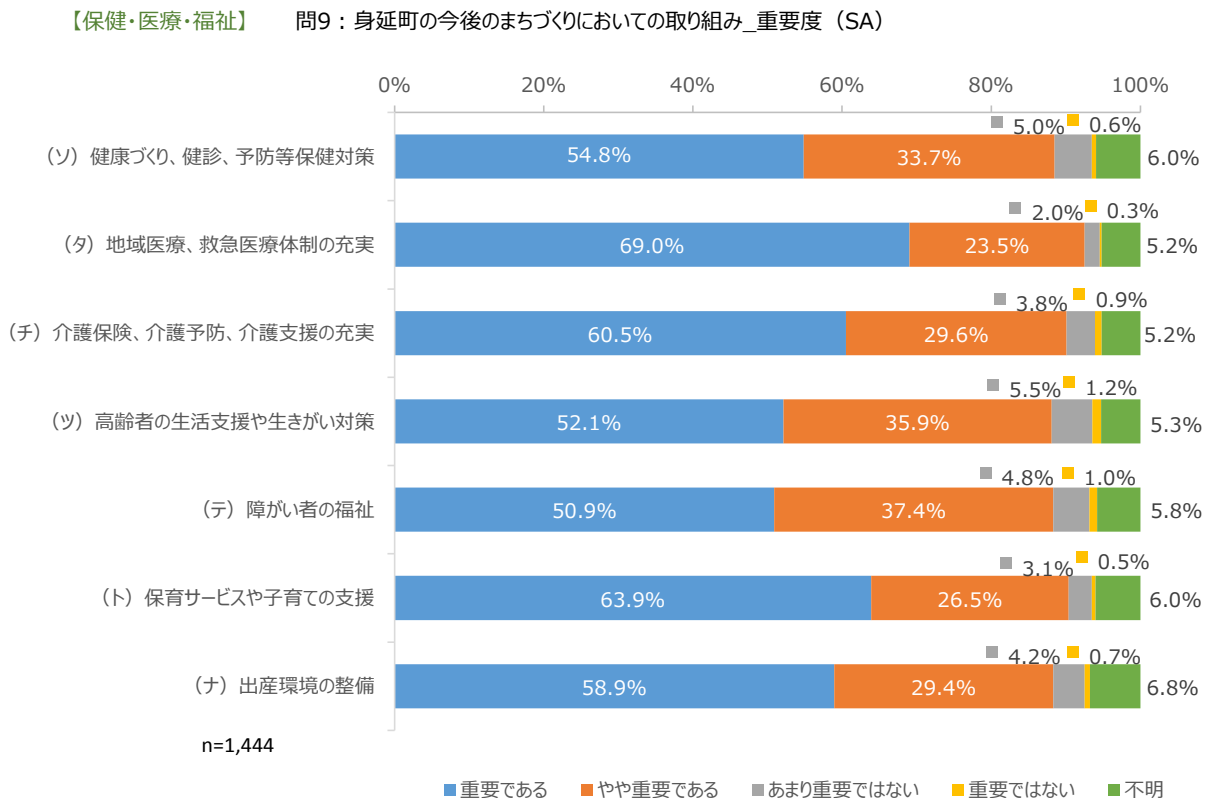
暮らしについては、全ての項目で「重要」と「やや重要」を合計すると8割を超える。



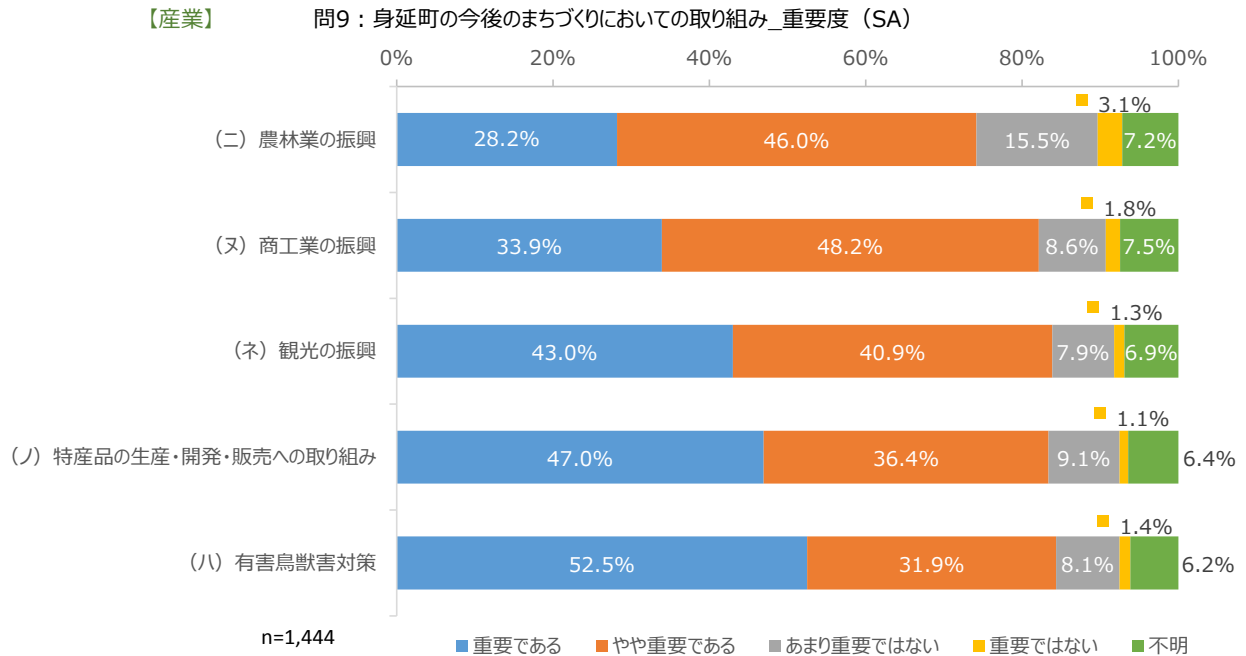
交通・通信については、「道路網、道路環境の整備」、「公共交通機関の利便性」の項目で、「重要である」が5割を超える。



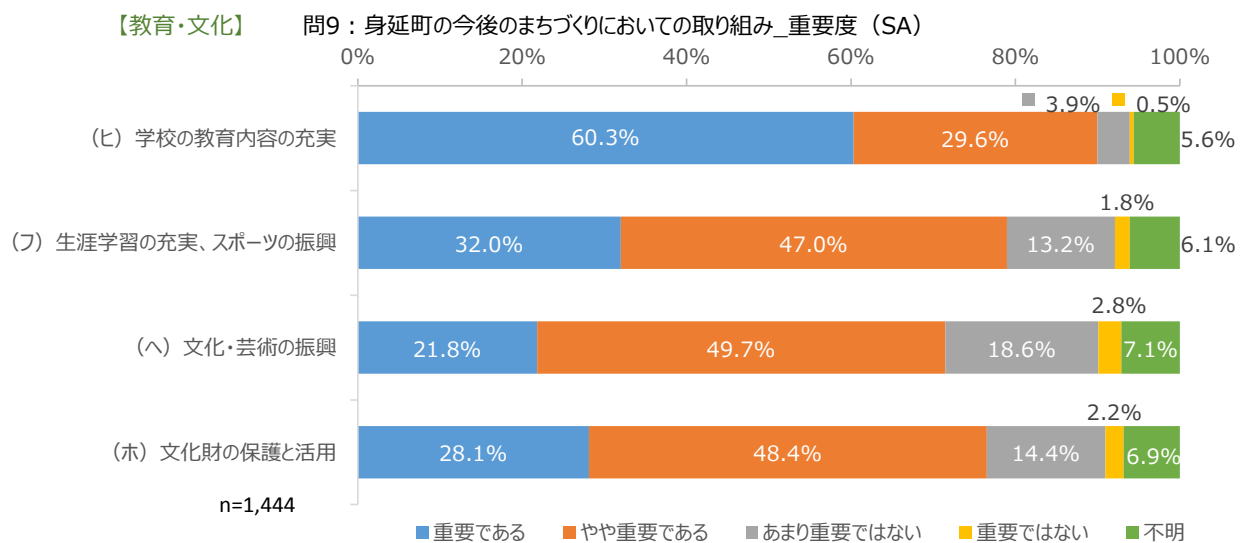
保健・医療・福祉については、全ての項目で5割以上が「重要」と回答している。「重要」と「やや重要」を合わせると8割を超える。



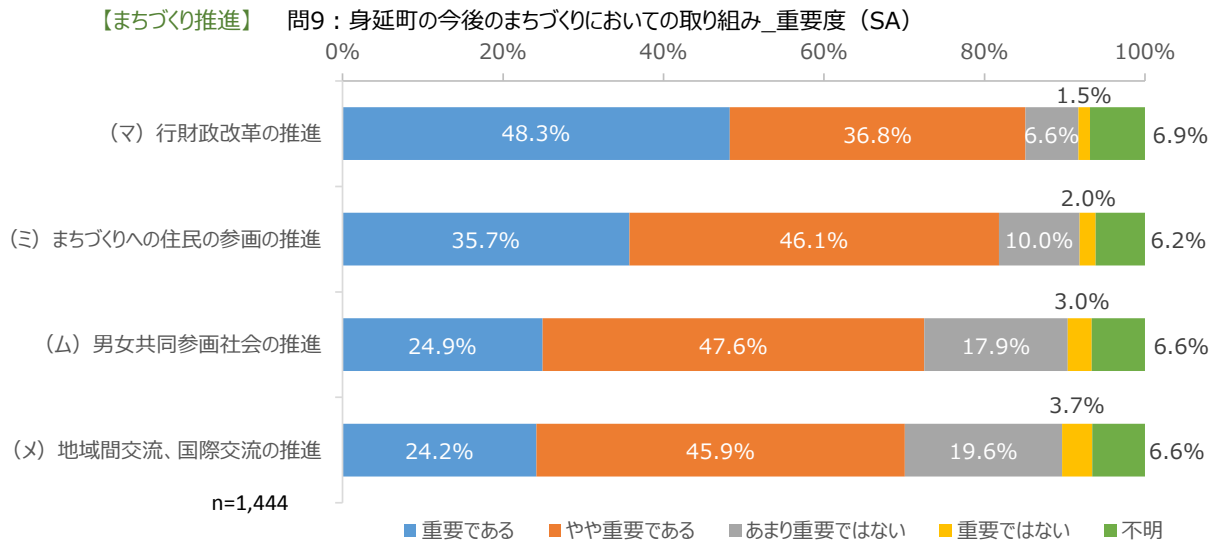
産業については、全ての項目で「重要」、「やや重要」を合計すると7割を超える。特に「有害鳥獣害対策」は5割以上が「重要」と回答している。



教育・文化については、「学校の教育内容の充実」は「重要」と「やや重要」を合わせると約9割となる。次いで「生涯学習の充実」（79.0%）、「文化財の保護と活用」（76.5%）「文化・芸術の振興」（71.5%）となる。



まちづくり推進については、「行財政改革の推進」は「重要」と「やや重要」を合わせると 85.1%となる。次いで「住民参加の推進」(81.8%)、「男女共同参画社会の推進」(72.5%)「地域間交流、国際交流の推進」(70.1%)となる。



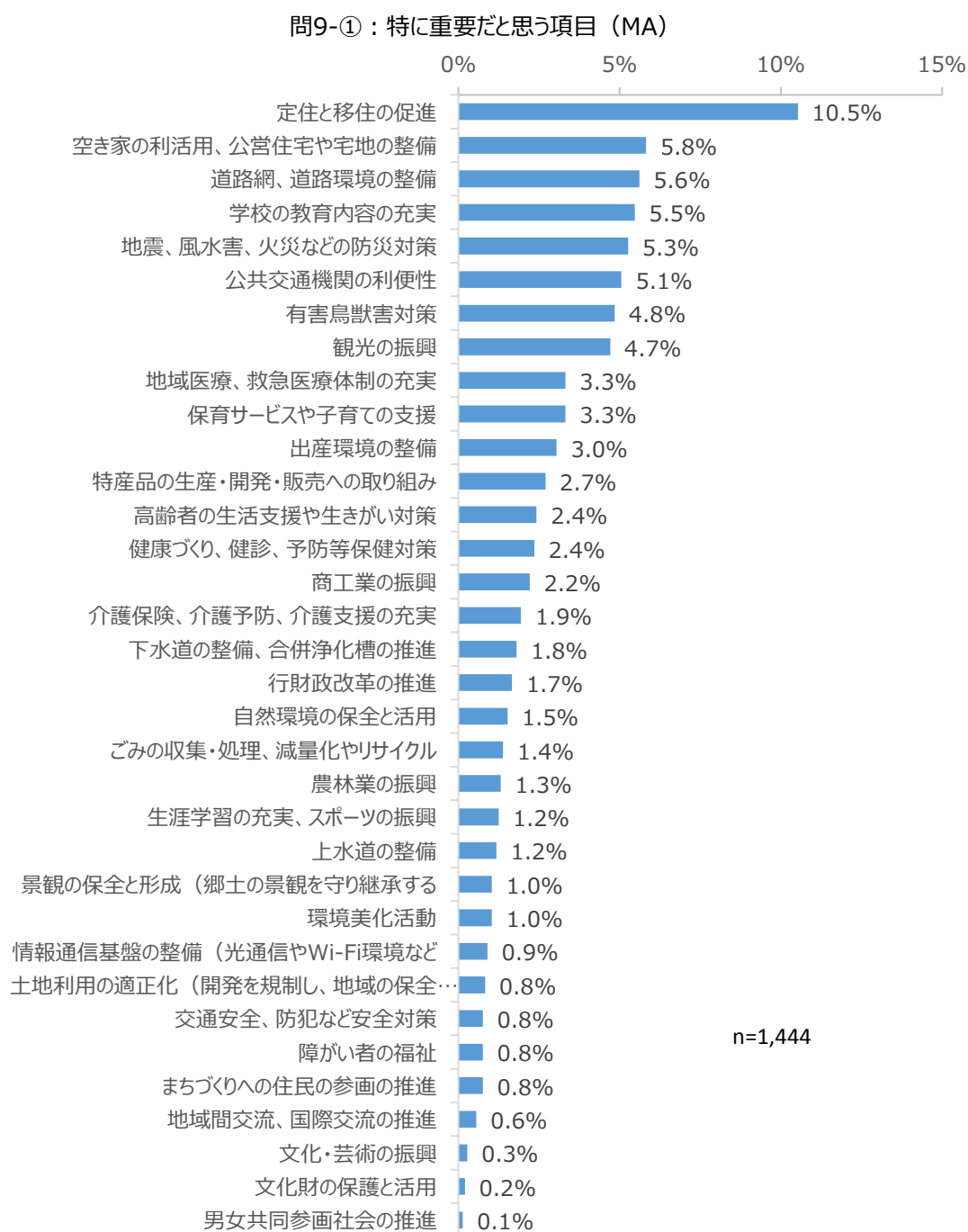
	(ア) 土地利用の適正化(開発を規制し、地域の保全を図る)	(イ) 景観の保全と形成(郷土の景観を守り継承する)	(ウ) 自然環境の保全と活用	(エ) 定住と移住の促進	(オ) 上下道の整備	(カ) 下水道の整備、合併浄化槽の推進	(キ) ごみの収集・処理、減量化やリサイクル	(ク) 環境美化活動	(ケ) 地震、風水害、火災などの防災対策	(コ) 交通安全、防犯など安全対策	(サ) 空き家の活用、公営住宅や宅地の整備
重要である	468	492	604	955	782	754	789	614	1,077	867	685
やや重要である	569	619	604	335	449	464	475	607	266	418	533
あまり重要ではない	222	177	97	40	97	106	82	109	29	63	112
重要ではない	73	45	34	11	23	27	16	16	3	5	24
不明	112	111	104	103	92	93	82	98	69	91	90
サンプル数	1,444	1,444	1,443	1,444	1,443	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444

	(シ) 道路網、道路環境の整備	(ス) 公共交通機関の利便性	(セ) 情報通信基盤の整備(光通信やWi-Fi環境など)	(ソ) 健康づくり、健診、予防等保健対策	(タ) 地域医療、救急医療体制の充実	(チ) 介護保険、介護予防、介護支援の充実	(ツ) 高齢者の生活支援や生きがい対策	(テ) 障がい者の福祉	(ト) 保育サービスや子育ての支援	(ナ) 出産環境の整備
重要である	827	852	545	792	997	874	753	735	923	851
やや重要である	430	432	601	486	339	427	519	540	382	424
あまり重要ではない	83	64	164	72	29	55	79	70	45	61
重要ではない	16	8	29	8	4	13	17	15	7	10
不明	88	88	105	86	75	75	76	84	87	98
サンプル数	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444

	(ニ) 農林業の振興	(ハ) 商工業の振興	(ヘ) 観光の振興	(ロ) 特産品の生産・開発・販売への取り組み	(リ) 有害鳥獣害対策	(ニ) 学校の教育内容の充実	(ホ) 生理学習の充実、スポーツの振興	(ヘ) 文化・芸術の振興	(ロ) 文化財の保護と活用	(マ) 行財政改革の推進	(ミ) まちづくりへの住民の参画の推進	(ム) 男女共同参画社会の推進	(メ) 地域間交流、国際交流の推進
重要である	407	490	621	678	758	871	462	315	406	697	516	360	349
やや重要である	664	696	590	526	460	428	678	717	699	532	665	687	663
あまり重要ではない	224	124	114	131	117	57	190	269	208	95	145	258	283
重要ではない	45	26	19	16	20	7	26	40	32	21	29	43	54
不明	104	108	100	93	89	81	88	103	99	99	89	96	95
サンプル数	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444

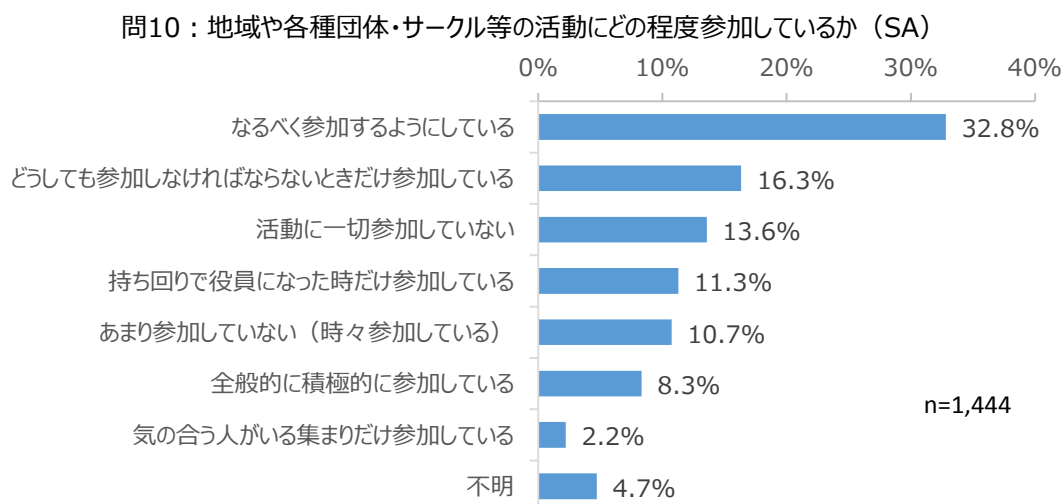
問 9-①：特に重要だと思う取り組みと、具体的提案（MA）

特に重要だと思う取り組みは、「定住と移住の促進」が10.5%と最も高く、次いで「空き家の利活用、公営住宅や宅地の整備」（5.8%）、「道路網、道路環境の整備」（5.6%）、「学校の教育内容の充実」（5.5%）、「地震、風水害、火災などの防災対策」（5.3%）である。一方、低い順では、「男女共同参画社会の推進」が0.1%と最も低く、次いで「文化財の保護と活用」、「文化・芸術の振興」、「地域間交流、国際交流の推進」、「まちづくりへの住民参加の推進」である。



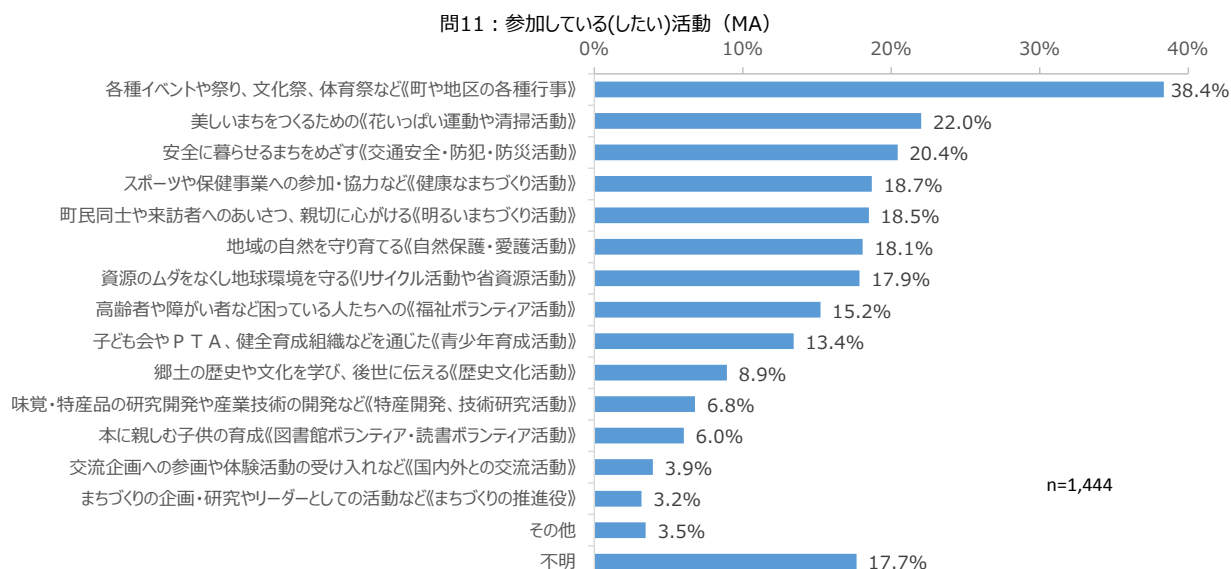
問 10 : 地域や各種団体・サークル等の活動にどの程度参加しているか (SA)

「積極的に参加している」は 8.3%、「なるべく参加するようにしている」がもっとも多く 32.8%、「義務的な参加など」が 29.8%、「あまり参加していない」や「一切参加しない」が 24.3%となっている。



問 11 : どのような活動に参加しているか(または参加したいか) (MA)

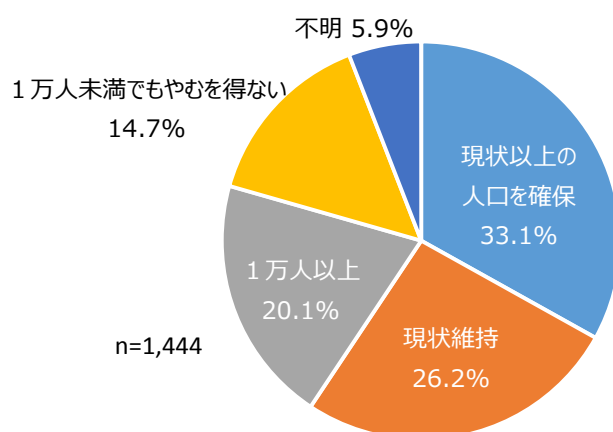
参加活動では「各種イベントや祭り」が 38.4%、「花いっぱい運動や清掃活動」が 22.0%、「交通安全・防犯・防災」が 20.4%となっている。



問 12：町の活力を維持していくために必要な人口規模（SA）

町の活力を維持していくために必要な人口規模については、「現状以上の人口を確保」が 33.1%と最も高く、次いで「現状維持」が 26.2%と、6 割弱が現状維持及びそれ以上の人口規模としている。

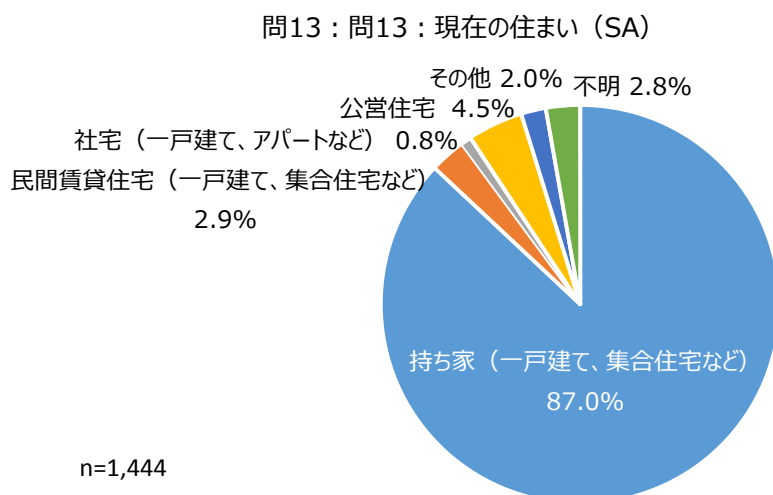
問12：町の活力を維持していくために必要だと思う人口規模（SA）



	N	%
現状以上の人口を確保	478	33.1%
現状維持	379	26.2%
1万人以上	290	20.1%
1万人未満でもやむを得ない	212	14.7%
不明	85	5.9%
サンプル数	1,444	100.0%

問 13 : 現在の住まい (SA)

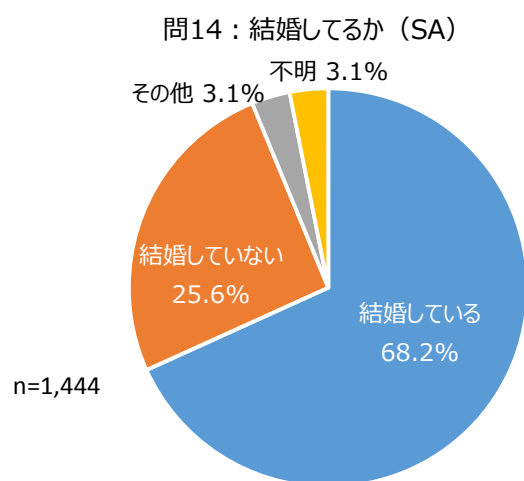
現在の住まいは、持ち家が 87.0%と圧倒的に高い。次いで公営住宅が 4.5%である。、民間の賃貸住宅はわずか 2.9%であり、若者や移住者などの多様なライフスタイルに対応した住宅形式は少ない。



	N	%
持ち家 (一戸建て、集合住宅など)	1,256	87.0%
民間賃貸住宅 (一戸建て、集合住宅など)	42	2.9%
社宅 (一戸建て、アパートなど)	12	0.8%
公営住宅	65	4.5%
その他	29	2.0%
不明	40	2.8%
サンプル数	1,444	100.0%

問 14 : 結婚しているか (SA)

「結婚している」が 68.2%、「結婚していない」が 25.6%となっている。

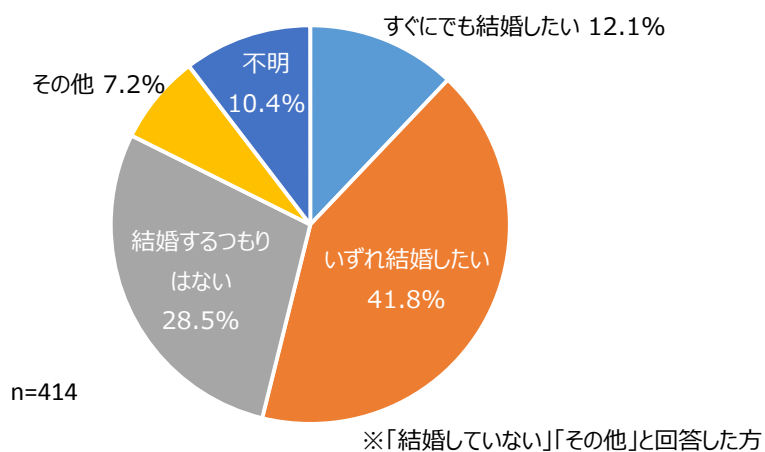


	N	%
結婚している	985	68.2%
結婚していない	369	25.6%
その他	45	3.1%
不明	45	3.1%
サンプル数	1,444	100.0%

問 14-①：将来結婚したいと思うか（SA）

「結婚していない」と回答した人に、結婚願望を聞いたところ、「すぐに結婚したい」、「いずれ結婚したい」が 53.9%に対し、「結婚するつもりはない」が 28.5%となっている。

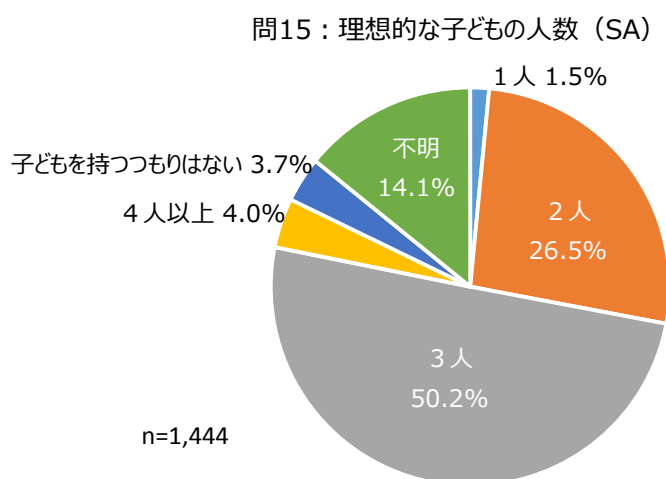
問14-①：将来結婚したいと思うか（SA）



	N	%
すぐにでも結婚したい	50	12.1%
いずれ結婚したい	173	41.8%
結婚するつもりはない	118	28.5%
その他	30	7.2%
不明	43	10.4%
サンプル数	414	100.0%

問 15 : 理想的な子どもの数 (SA)

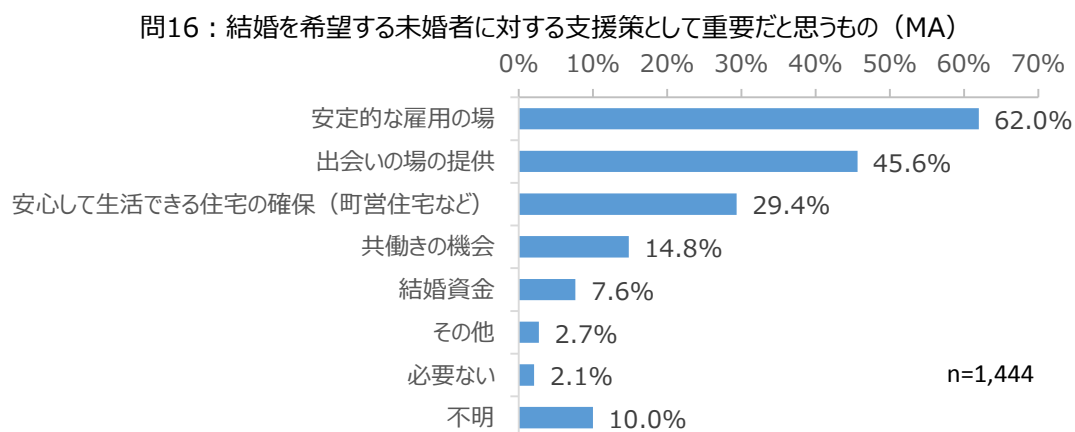
理想的な子どもの数については、「3人」が半数を占め、次いで「2人」が26.5%、「4人以上」が4.0%と続いている。「1人」はわずか1.5%である。



	N	%
1人	22	1.5%
2人	382	26.5%
3人	725	50.2%
4人以上	58	4.0%
子どもを持つつもりはない	53	3.7%
不明	204	14.1%
サンプル数	1,444	100.0%

問 16 : 結婚を希望する未婚者に対する支援として重要だと思うもの (MA)

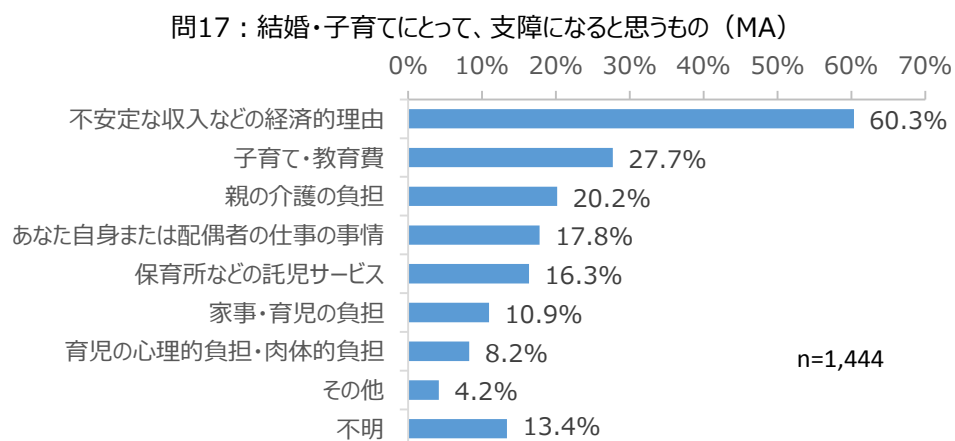
結婚を希望する未婚者に対する支援としては、「安定的な雇用の場」が6割以上、次いで「出会いの場の提供」が45.6%、「住宅の確保」が29.4%と続いている。



	N	%
安定的な雇用の場	895	62.0%
出会いの場の提供	659	45.6%
安心して生活できる住宅の確保 (町営住宅など)	424	29.4%
共働きの機会	214	14.8%
結婚資金	110	7.6%
その他	39	2.7%
必要ない	30	2.1%
不明	144	10.0%
サンプル数	1,444	100.0%

問 17：結婚・子育てにとって、支障になること（MA）

結婚・子育てにとって支障となることは、「不安定な収入などの経済的理由」が約 6 割、「子育て・教育費」が 27.7%、「親の介護の負担」が 20.2%と続いている。

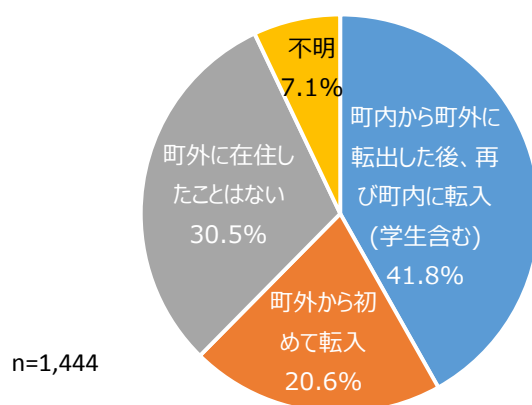


	N	%
不安定な収入などの経済的理由	871	60.3%
子育て・教育費	400	27.7%
親の介護の負担	291	20.2%
あなた自身または配偶者の仕事の事情	257	17.8%
保育所などの託児サービス	236	16.3%
家事・育児の負担	158	10.9%
育児の心理的負担・肉体的負担	119	8.2%
その他	60	4.2%
不明	193	13.4%
サンプル数	1,444	100.0%

問 18 : 身延町外に在住したことがあるか (SA)

町外居住経験者は62.4%、未経験者が30.5%である。901人の町外居住経験者のうち、Uターンの転入者が7割弱(67.0%)、町外からの初めての転入者が3割強である

問18：身延町外に在住したことがあるか (SA)



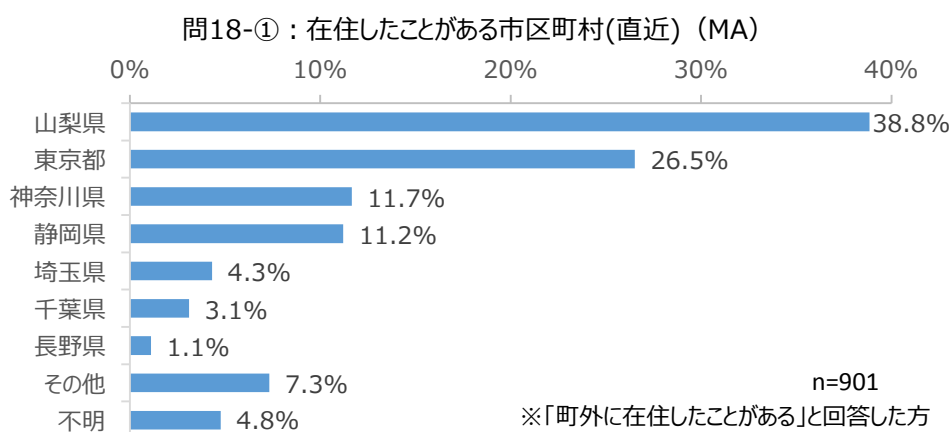
	N	%
町内から町外に転出した後、再び町内に転入(学生含む)	604	41.8%
町外から初めて転入	297	20.6%
町外に在住したことはない	441	30.5%
不明	102	7.1%
サンプル数	1,444	100.0%

問 18-①：在住したことがある市町村（MA）

転入者の、前居住地は山梨県がもっとも多く、次いで東京都、神奈川県、静岡県の近隣都県が続いている。

県内では甲府市を筆頭に、南アルプス市、富士川町、中央市、南部町、市川三郷町が続いている。

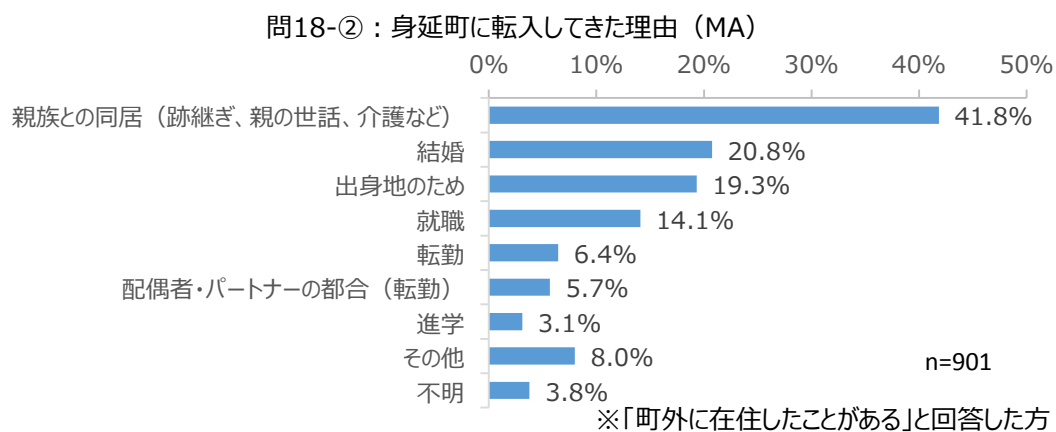
※直近1つのSA設問ですが、複数回答があったためMA集計にしています。



	N	%
山梨県	350	38.8%
東京都	239	26.5%
神奈川県	105	11.7%
静岡県	101	11.2%
埼玉県	39	4.3%
千葉県	28	3.1%
長野県	10	1.1%
その他	66	7.3%
不明	43	4.8%
サンプル数	901	100.0%

問 18-② : 身延町に転入してきた理由 (MA)

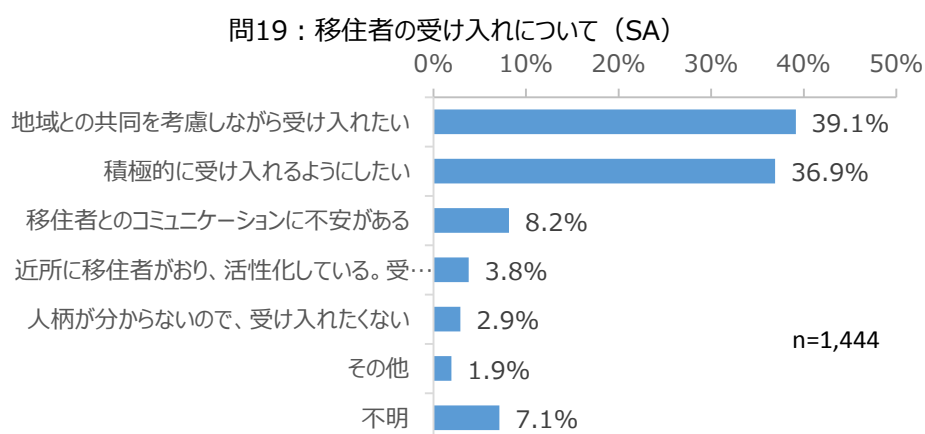
転入理由は「親族との同居（跡継ぎ、介護など）」がもっとも多く、次いで「結婚」、「出身地のため」が続く。



	N	%
親族との同居（跡継ぎ、親の世話、介護など）	377	41.8%
結婚	187	20.8%
出身地のため	174	19.3%
就職	127	14.1%
転勤	58	6.4%
配偶者・パートナーの都合（転勤）	51	5.7%
進学	28	3.1%
その他	72	8.0%
不明	34	3.8%
サンプル数	901	100.0%

問 19 : 移住者の受け入れについて (SA)

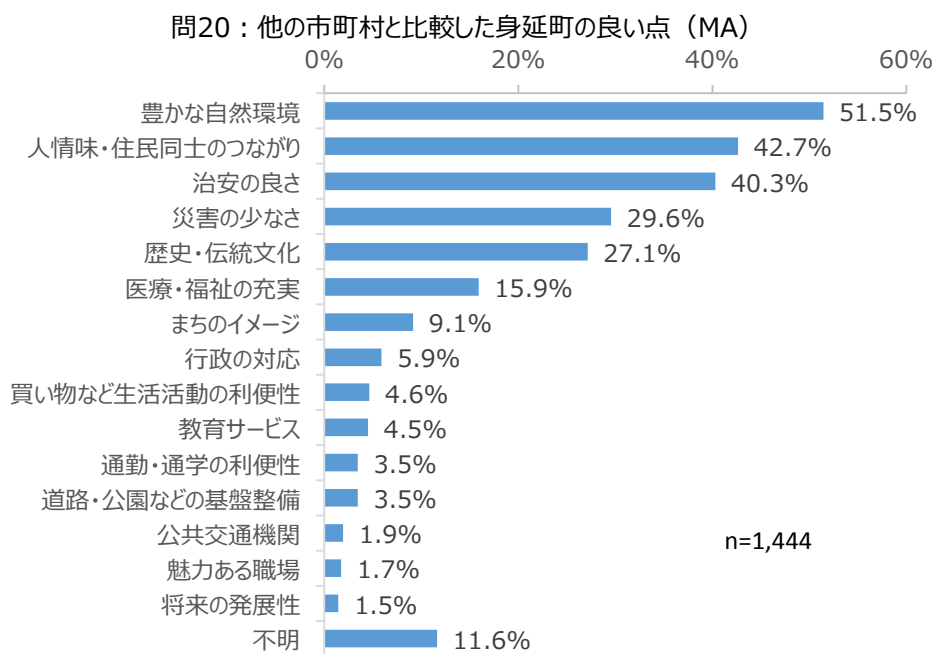
移住者の受け入れに関しては、「受け入れたい」とする町民が 79.8%に対し、「受け入れたくない」が 11.1%である（その他、不明除く）。



	N	%
地域との共同を考慮しながら受け入れたい	565	39.1%
積極的に受け入れるようにしたい	533	36.9%
移住者とのコミュニケーションに不安がある	118	8.2%
近所に移住者があり、活性化している。受け入れを進めたい	55	3.8%
人柄が分からないので、受け入れたくない	42	2.9%
その他	28	1.9%
不明	103	7.1%
サンプル数	1,444	100.0%

問 20：他の市町村と比較して、身延町の「良い点」（MA）

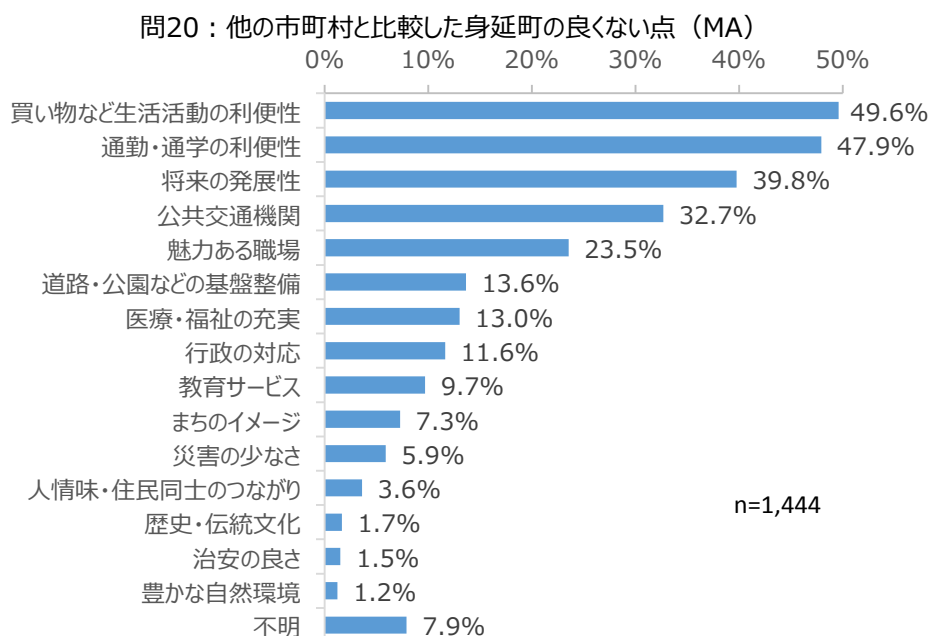
身延町の「良い点」は「豊かな自然環境」、「人情味、住民同士のつながり」、「治安の良さ」など。



	N	%
豊かな自然環境	743	51.5%
人情味・住民同士のつながり	616	42.7%
治安の良さ	582	40.3%
災害の少なさ	427	29.6%
歴史・伝統文化	392	27.1%
医療・福祉の充実	230	15.9%
まちのイメージ	132	9.1%
行政の対応	85	5.9%
買い物など生活活動の利便性	67	4.6%
教育サービス	65	4.5%
通勤・通学の利便性	50	3.5%
道路・公園などの基盤整備	50	3.5%
公共交通機関	28	1.9%
魅力ある職場	25	1.7%
将来の発展性	21	1.5%
不明	168	11.6%
サンプル数	1,444	100.0%

問 20 : 他の市町村と比較して、身延町の「良くない点」(MA)

「良くない点」は「買い物や生活活動の利便性」、「通勤・通学の利便性」、「将来の発展性」など。



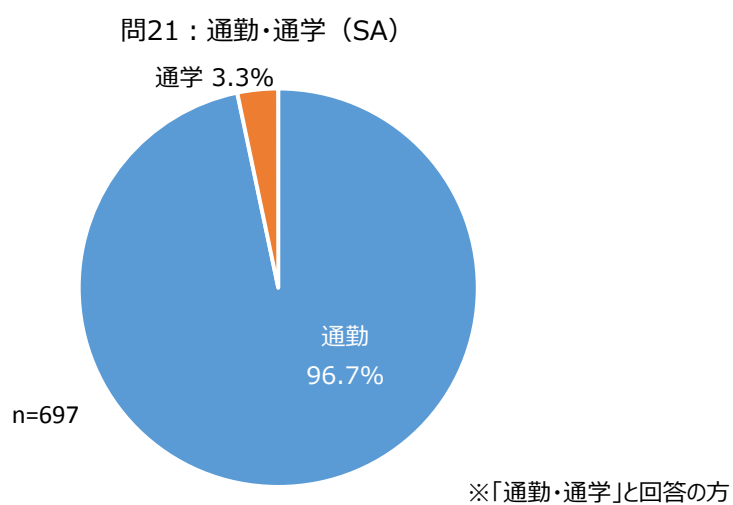
	N	%
買い物など生活活動の利便性	716	49.6%
通勤・通学の利便性	692	47.9%
将来の発展性	574	39.8%
公共交通機関	472	32.7%
魅力ある職場	340	23.5%
道路・公園などの基盤整備	197	13.6%
医療・福祉の充実	188	13.0%
行政の対応	168	11.6%
教育サービス	140	9.7%
まちのイメージ	105	7.3%
災害の少なさ	85	5.9%
人情味・住民同士のつながり	52	3.6%
歴史・伝統文化	24	1.7%
治安の良さ	22	1.5%
豊かな自然環境	18	1.2%
不明	114	7.9%
サンプル数	1,444	100.0%

問 21 : 通勤・通学している場所 (SA)

通勤・通学の別については、通勤者が 96.7%、通学者は 3.3%である。

通勤（通学）者の目的地は、身延町内が 44.8%と最も高く、次いで甲府市（10.8%）、市川三郷町（5.6%）、南アルプス市（4.9%）、富士川町(4.6%)、南部町（4.6%）となっている。

【通勤・通学の別】



	N	%
通勤	674	96.7%
通学	23	3.3%
サンプル数	697	100.0%

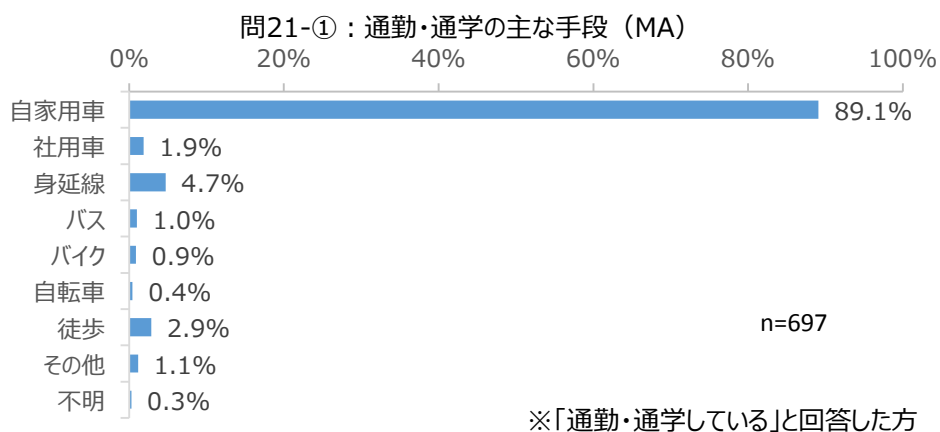
【通勤・通学の場所】

問 21：市町村	N	%
甲府市	75	10.8%
富士吉田市	1	0.1%
山梨市	1	0.1%
韮崎市	3	0.4%
南アルプス市	34	4.9%
北杜市	1	0.1%
甲斐市	7	1.0%
笛吹市	7	1.0%
中央市	21	3.0%
市川三郷町	39	5.6%
早川町	11	1.6%
身延町	312	44.8%
南部町	32	4.6%
富士川町	32	4.6%
昭和町	9	1.3%
静岡県	13	1.9%
県内	8	1.1%
県外	2	0.3%
不明	89	12.8%
サンプル数	697	100.0%

※「通勤・通学している」と回答した方

問 21-①：通勤・通学の主な手段（MA）

通勤（通学）者の交通手段は自家用車が89.1%、社用車を合わせると9割以上になる。



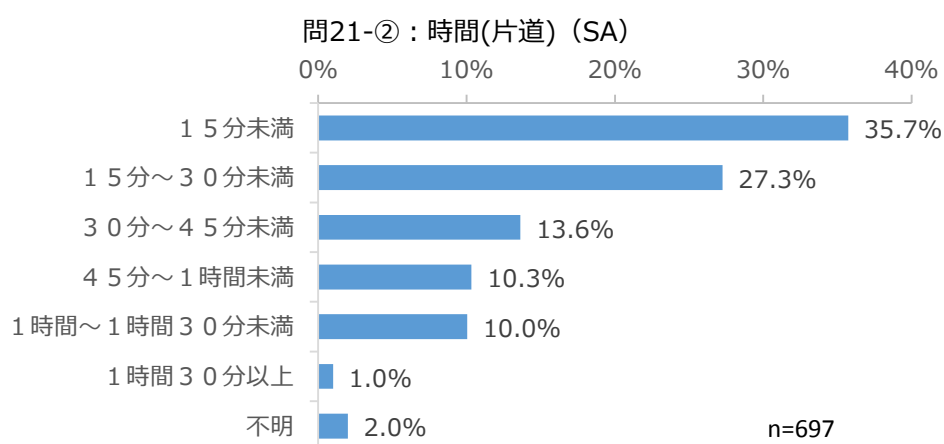
	N	%
自家用車	621	89.1%
社用車	13	1.9%
身延線	33	4.7%
バス	7	1.0%
バイク	6	0.9%
自転車	3	0.4%
徒歩	20	2.9%
その他	8	1.1%
不明	2	0.3%
サンプル数	697	100.0%

問 21-② : 通勤・通学に要している時間(片道)と距離(片道) (SA)

通勤（通学）の所要時間は、15分未満が35.7%で、15～30分未満が27.3%と63.0%が30分未満の通勤時間である。

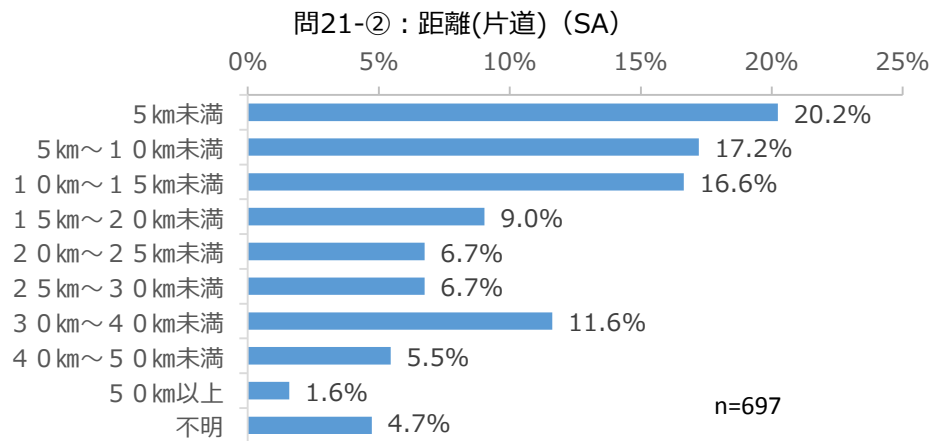
通勤（通学）距離は5km未満（20.2%）、5～10km未満（17.2%）、10～15km未満（16.6%）、15～20km未満（9.0%）と63.0%が20km未満の通勤距離である。

【時間】



問 21-② : 時間(片道)	N	%
15分未満	249	35.7%
15分～30分未満	190	27.3%
30分～45分未満	95	13.6%
45分～1時間未満	72	10.3%
1時間～1時間30分未満	70	10.0%
1時間30分以上	7	1.0%
不明	14	2.0%
サンプル数	697	100.0%

【距離】

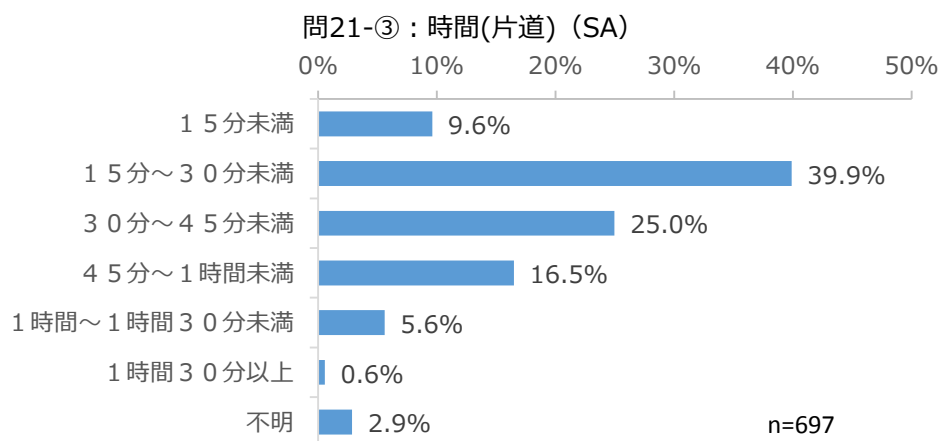


問 21-②：距離(片道)	N	%
5 km未満	141	20.2%
5 km～10 km未満	120	17.2%
10 km～15 km未満	116	16.6%
15 km～20 km未満	63	9.0%
20 km～25 km未満	47	6.7%
25 km～30 km未満	47	6.7%
30 km～40 km未満	81	11.6%
40 km～50 km未満	38	5.5%
50 km以上	11	1.6%
不明	33	4.7%
サンプル数	697	100.0%

問 21-③ : 通勤・通学可能と考える、時間(片道)と距離(片道)の上限 (SA)

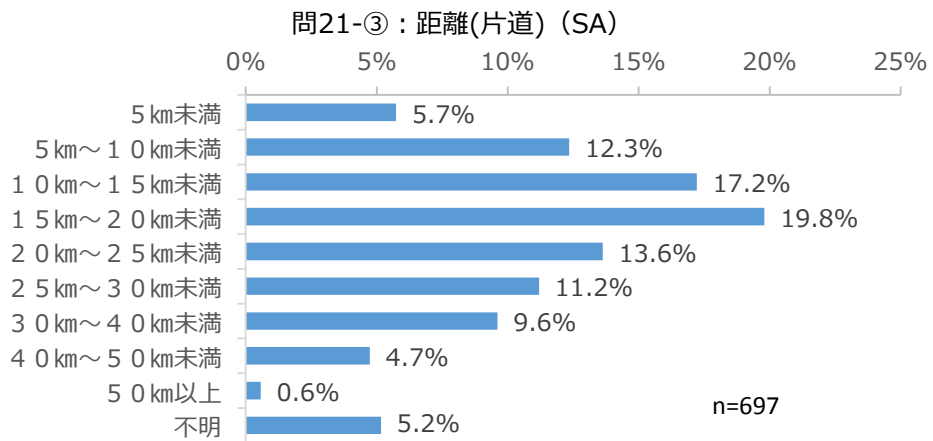
通勤可能な時間については、通勤者の74.5%が45分未満としている。また、通勤可能な距離については、通勤者の8割弱が30km未満としている。

【時間】



問 21-③ : 時間(片道)	N	%
15分未満	67	9.6%
15分～30分未満	278	39.9%
30分～45分未満	174	25.0%
45分～1時間未満	115	16.5%
1時間～1時間30分未満	39	5.6%
1時間30分以上	4	0.6%
不明	20	2.9%
サンプル数	697	100.0%

【距離】

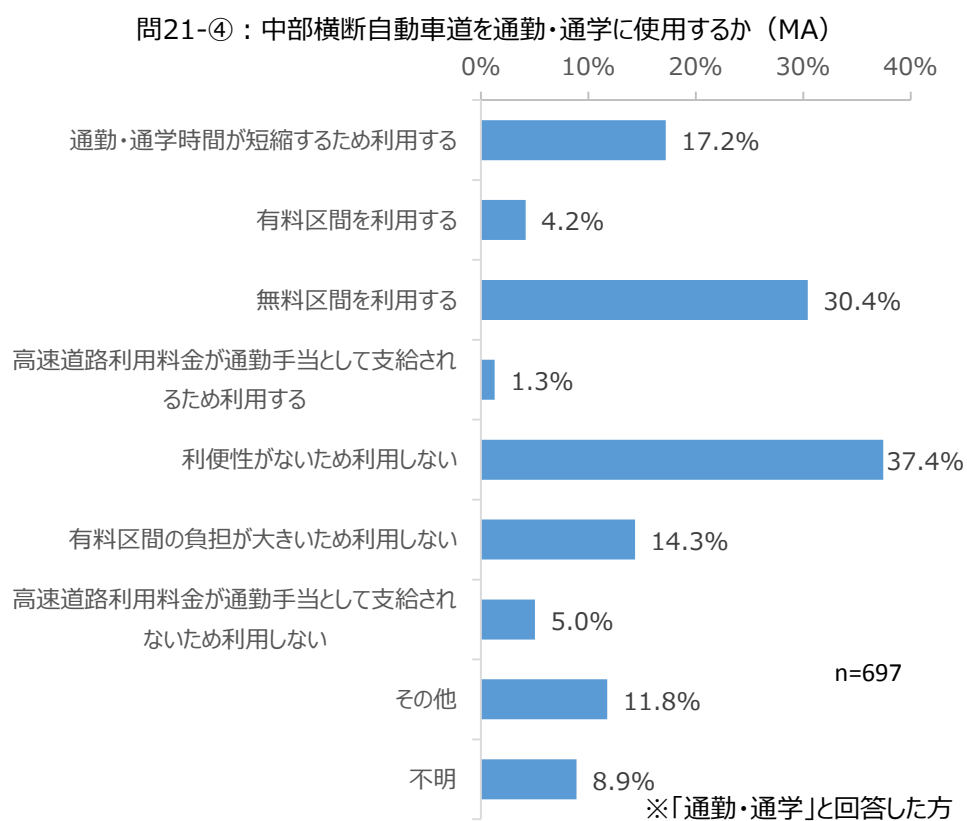


問 21-③：距離(片道)	N	%
5 km未満	40	5.7%
5 km～10 km未満	86	12.3%
10 km～15 km未満	120	17.2%
15 km～20 km未満	138	19.8%
20 km～25 km未満	95	13.6%
25 km～30 km未満	78	11.2%
30 km～40 km未満	67	9.6%
40 km～50 km未満	33	4.7%
50 km以上	4	0.6%
不明	36	5.2%
サンプル数	697	100.0%

問 21-④：中部横断自動車道を通勤・通学に利用するか（MA）

「利便性がないため利用しない」（37.4%）、「無料区間を利用する」（30.4%）、「通勤・通学時間が短縮するため利用する」（17.2%）の順となる。

通勤・通学に「利用する」は48.3%、「利用しない」は51.7%と利用しないとするものが若干多い（その他、不明を除く）。



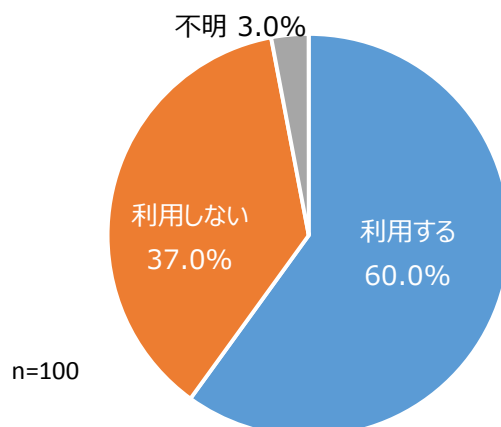
	N	%
通勤・通学時間が短縮するため利用する	120	17.2%
有料区間を利用する	29	4.2%
無料区間を利用する	212	30.4%
高速道路利用料金が通勤手当として支給されるため利用する	9	1.3%
利便性がないため利用しない	261	37.4%
有料区間の負担が大きいため利用しない	100	14.3%
高速道路利用料金が通勤手当として支給されないため利用しない	35	5.0%
その他	82	11.8%
不明	62	8.9%
サンプル数	697	100.0%

* 赤は利用すると回答したもの（370人）

問 21-⑤：高速道路料金が通勤手当として支給される場合、高速道路を利用するか

「有料区間の負担が大きいため利用しない」との回答者について、高速道路料金が通勤手当として支給されれば、6割のものが利用するとしている。

問21-⑤：高速道路料金が通勤手当として支給される場合、高速道路を利用するか



※「有料区間の負担が大きいため利用しない」と回答した方

	N	%
利用する	60	60.0%
利用しない	37	37.0%
不明	3	3.0%
サンプル数	100	100.0%

問 21-⑥ : 利用するインターチェンジ(SA)

通勤・通学者の利用予定のインターチェンジについては、問 21 の「通勤・通学をしている」、問 21-④の1～4「利用する」を選択した方のみ集計した。サンプル数は264人、うち167人は無記入で、97人の回答者の利用状況を調べた。

身延町内の IC（身延山・身延・中富 IC 及び八木沢、和田、下山、田原の地名）から目的地の IC の区間を調べると、身延町内の IC 間の利用も 9 件あり、回答者の約 1 割弱に当たる。

最も回答が多い目的地は、六郷 IC で 30 件、次いで増穂 IC（24 件）、富沢 IC（7 件）、南部 IC（6 件）の順であり、身延町内 IC 間利用を含めると合計 76 件となり、約 8 割近くの回答者が身延町近隣の IC を利用している。

なお、身延町外の IC 区間を回答する例（六郷～南部間など、8 件）も見られた。

	身延山IC	身延IC	中富IC	(八木沢)	(和田)	(下山)	(田原)	(波高島)	(富士宮)	清水IC	富沢IC
身延山IC		3	1	0	0	0	0	0	0	0	3
身延IC			3	0	0	0	0	0	1	1	4
中富IC				2	0	0	0	0	0	0	0
(八木沢)					0	0	0	0	0	0	0
(和田)						0	0	0	0	0	0
(下山)							0	0	0	0	0
(田原)								0	0	0	0
(波高島)									0	0	0
(富士宮)										0	0
清水IC											0
富沢IC											
南部IC											
(中野)											
六郷IC											
増穂IC											
南アルプスIC											
白根IC											
双葉IC											
須玉IC											
甲府南IC											
不明											

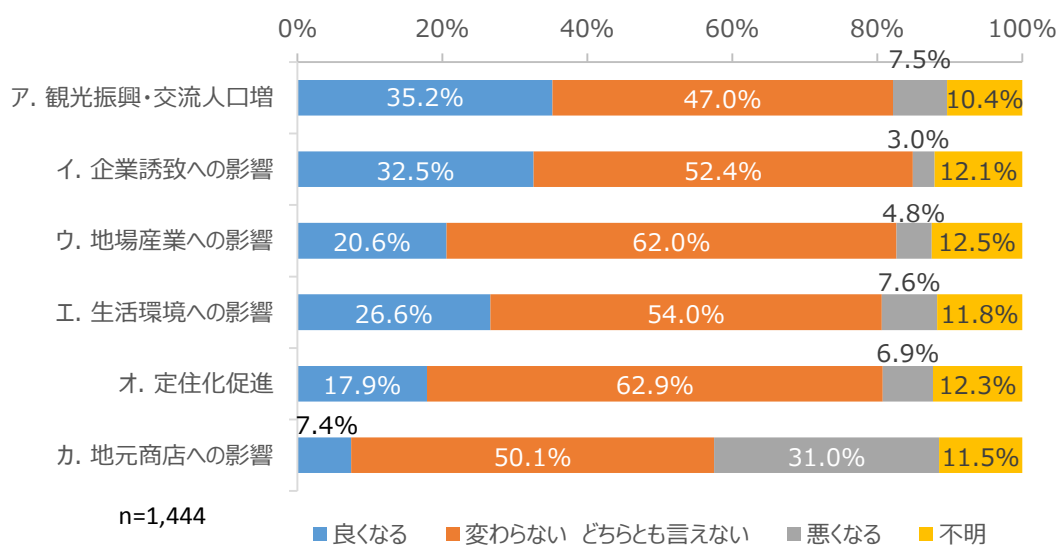
	南部IC	(中野)	六郷IC	増穂IC	南アルプスIC	白根IC	双葉IC	須玉IC	甲府南IC	不明	計
身延山IC	0	0	8	2	0	1	0	0	0	1	19
身延IC	2	0	17	7	0	0	1	1	0	4	41
中富IC	2	0	1	6	1	2	2	0	1	0	17
(八木沢)	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
(和田)	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
(下山)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
(田原)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
(波高島)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
(富士宮)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
清水IC	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
富沢IC	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
南部IC		0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
(中野)			0	0	0	0	0	0	0	0	0
六郷IC				6	0	1	1	0	0	0	8
増穂IC					0	0	1	0	0	0	1
南アルプスIC						0	0	0	0	0	0
白根IC							0	0	0	0	0
双葉IC								0	0	0	0
須玉IC									0	0	0
甲府南IC										0	0
不明										167	167

※問 21 = 「通勤・通学をしている」、問 21-④ = 1～4「利用する」を選択した方のみ集計

問 22 : 中部横断自動車道開通により、身延町はどのように変化と思うか(SA)

「観光振興」、「企業誘致」、「生活環境」については、「良くなる」が「悪くなる」を大幅に上回る。また、「地場産業」、「定住化促進」についても「良くなる」が上回る。ただし、各項目で「どちらとも言えない」がもっとも高い割合である。他方、「地域商店への影響」については、「悪くなる」が「良くなる」を大幅に上回っている

問22：中部横断道の開通により、身延町はどのように変化と思うか（SA）



	ア. 観光振興・交流人口増	イ. 企業誘致への影響	ウ. 地場産業への影響	エ. 生活環境への影響	オ. 定住化促進	カ. 地元商店への影響
良くなる	508	470	297	384	258	107
変わらない どちらとも言えない	678	756	896	780	908	723
悪くなる	108	43	70	110	100	448
不明	150	175	181	170	178	166
サンプル数	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444	1,444